名古屋大学キャンパス・サインマニュアル2024

Nagoya University Campus Sign Manual 2024

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構

名古屋大学

名古屋大学東山キャンパス全景

サイン｜ sign

①合図。記号。信号。また、看板。
②野球などで、味方どうしで交わす手振りなどによる指示。
③署名。

（広辞苑　第六版 , 岩波書店 ,2008）

サイン原義｜しるし , 記号 . cf.assign, design, resign.［派］signal, signature

（名）　①表れ、しるし、徴候、前兆、証拠、気配、痕跡、形跡、足跡
②標識、標示、看板、
③身ぶり、手まね、合図、信号、暗号、サイン
④符号、記号
⑤宮《zodiac の 12 区分の 1 つ》、お告げ、奇跡
（動・他）①署名する、サインする、署名されている
②（契約）を結ぶ、契約する、署名させて雇う
③合図する、（身振りで）知らせる
（動・自）①署名する、契約する、調印する、契約書に署名して雇われる
②合図する

（ジーニアス英和辞典　第 4 版 , 大修館書店 ,2008）

目次
Contents

１｜基本理念
– １．１｜はじめに
– １．２｜サイン計画の基本方針
– １．３｜サイン計画の対象とシステム
– １．４｜本マニュアルの構成
– １．５｜本マニュアルの運用
２｜サインの現状把握と課題 –
– ２．１｜全学案内サイン
– ２．２｜エリア案内サイン
– ２．３｜矢印サイン
– ２．４｜建物名サイン
– ２．５｜建物内サイン
– ２．６｜規制・交通標識・広告サイン等
３｜共通デザインガイドライン –
– ３．１｜設置位置・設置形態
– ３．２｜表記内容
– ３．３｜ロゴデザイン
– ３．４｜使用言語・書体
– ３．５｜色彩
– ３．６｜素材・仕上
– ３．７｜ピクトグラム
４｜外構サイン –
– ４．１｜外構サインの配置
– ４．２｜全学案内サイン
– ４．３｜エリア案内サイン
– ４．４｜建物名サイン
５｜建物内サイン –
– ５．１｜総合案内板
– ５．２｜各階案内板
– ５．３｜組織・室名サイン
– ５．４｜共用設備サイン
６｜その他案内サイン –
– ６．１｜規制サイン等
– ６．２｜交通標識
– ６．３｜イベント情報掲示板
– ６．４｜広告サイン・サークル看板等
– ６．５｜モニュメント等
– ６．６｜危険物表示サイン

基本理念

Basic Idea

1．1｜はじめに
1．2｜サイン計画の基本方針
1．3｜サイン計画の対象とシステム
1．4｜本マニュアルの構成
1．5｜本マニュアルの運用

図 1-1　名古屋大学キャンパスマスタープラン 2022 表紙

1-1　はじめに

本学では 2013 年に、サイン計画や保守に関わる関係者の共通認識の確立を目指し「名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012」を策定、以降、これに基づいて順次整備を進めてきた。しかし、策定から 12 年経過した現在、部局エリアサインや建物名サインなどにおいて、依然として対応にばらつきが見られることなどが、「名古屋大学キャンパスマスタープラン 2022」（図 1-1）でも課題とされていた。

これまでも、現行のサインには複数のデザインが混在し、設置位置や包括範囲などに多くの問題を抱えており、全学的にサインのシステムやデザインにおける共通認識がもたれていたとは言い難かった。その結果、来訪者から「わかりにくい」「迷いやすい」といった指摘が多く寄せられていた。一方で、大学は従来の教育研究機関としての役割に加え、地域社会との連携拠点、国際交流の場、イノベーション創出の場としての役割を担うことが求められており、年齢、性別、文化の違いや障害の有無にかかわらず、わかりやすく開かれたユニバーサルデザインや ICT（情報通信技術）の社会受容度の進展に対応する必要性が認識されるようになった。

これらの新しい視点を取り入れ、さらなる国際化や地域との連携、そしてあらゆる人にとってわかりやすいキャンパスを実現するため、本マニュアルの改訂を行った。

本改訂版マニュアルは、主に東山キャンパスにおける課題に基づいて策定されているが、鶴舞キャンパスや大幸キャンパスなど、名古屋大学を構成する他のキャンパスへの適用も想定している。これにより、全学的な共通基準としてのサインマニュアルを確立し、統一感のある、機能的で魅力的なキャンパス環境の創出を目指す。

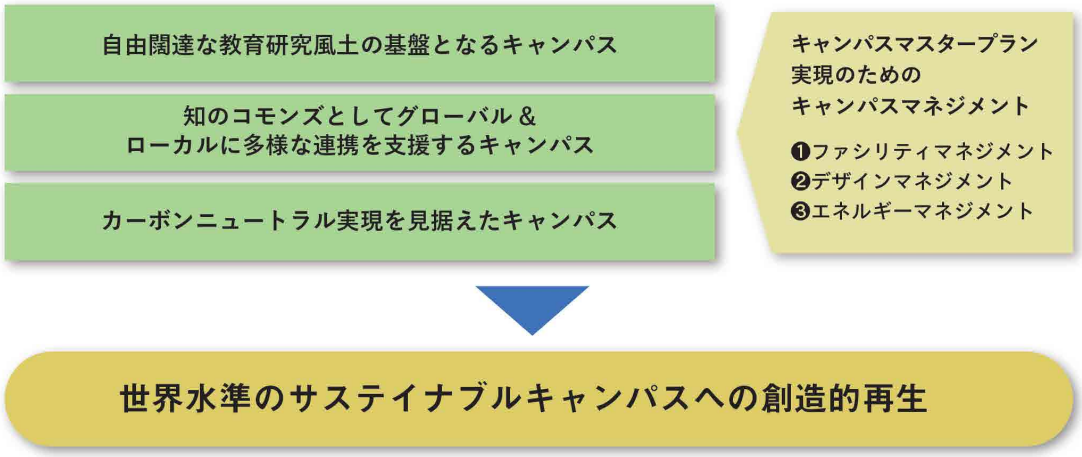


図 1-2　キャンパスマスタープラン 2022 のコンセプト

1-2　サイン計画の基本方針

ー世界水準のサスティナブルキャンパスへの創造的再生ー

前述した『**名古屋大学キャンパスマスタープラン 2022**』では、計画コンセプトとして、

(1)「自由闊達な教育研究風土の基盤となるキャンパス」
(2)「知のコモンズとしてグローバル＆ローカルに多様な連携を支援するキャンパス」
(3)「カーボンニュートラル実現を見据えたキャンパス」

が掲げられ、これらの実施とともに、

(4)「計画実現のためのキャンパスマネジメント」

の実施が、上記の計画コンセプトを支える運営コンセプト（図 1-2）とされている。とくに、計画コンセプト（2）は、国内外のあらゆる来訪者にとって分かりやすいサイン計画を要求するものである。

名古屋大学のキャンパスでは、本学職員・学生に限らず多種多様な人々がキャンパス内を移動し、様々な活動を行っている。また本学では、多くの留学生や外国人研究者を受け入れ、公共団体・民間企業・地域社会との相互協力を進め、様々なかたちで、社会にむけての大学開放の取り組みを積極的に進めている。

このような状況下において、「東海国立大学機構 2022 年度目標」では、キャンパスを「コモンズ」として位置づける構想を掲げている。これは文部科学省が推進する「イノベーション・コモンズ」の概念と軌を一にする重要な取り組みである。当該コモンズ化により、キャンパスは地域産業界との「共創」拠点として機能し、研究者、学生、企業人、地域住民など、多様なステークホルダーが活躍できる場としての展開が期待されている。

こうした活動は今後ますます拡大していく見通しであるが、その実現においては適切なサイン計画の策定および実装が重要な役割を果たすことが指摘できる。本学関係者といえども広大なキャンパスの全貌を認知することは困難であり、効果的なサイン計画の導入により、多様な利用者の円滑な動線確保および施設アクセシビリティの向上が実現される。

このため、サインマニュアルは高齢者や車いす使用者等、あらゆる人にわかりやすく、アクセスしやすいキャンパスとなるよう、ユニバーサルデザインの理念に則って整備を進めることを目指している。これらの取り組みは、コモンズとしてのキャンパスの機能を最大限に引き出すための基盤的要素となることが示唆される。

東山キャンパスでは、豊田講堂などのランドマークや、グリーンベルトや東山丘陵など特徴的なランドスケープが存在する。こうした建築・環境自身がもつ特性は、キャンパスの分かりやすさにとって不可欠である。キャンパスの環境整備においてはこうした特性を最大限に生かし、文字や図面によるサインはこうした周囲の環境情報を活用し、これを補助するものとする。

サインマニュアル制定に際しての基本方針を以下のとおり定める。

基本方針１．明確でわかりやすい階層的システム

・**明快な誘導システム**｜来訪者を円滑に誘導するために、表示内容に明確な階層性をもたせ、適切な位置に適切な情報を表すサインを配置する明快な誘導システムとする。

・**デザインガイドライン**｜キャンパス全体でのサインシステムの一貫性を保つために、屋内外のサインに使用する文字、色彩、寸法、素材、形態、仕上などのデザインガイドラインを定める。

・**情報の統一**｜さまざまなメディアとの整合をはかり、特にインターネット、ホームページ上の電子情報との統一をはかる。

基本方針２．多様な来訪者・利用者を受け入れるユニバーサルデザイン

・**アクセシビリティ**｜キャンパスを訪れる人々にとって理解しやすく、アクセスがしやすいサイン計画とする。

・**国際化**｜表示文字は日本語と英語を必ず併用する、国際基準に基づいたピクトグラムを用いるなど国際化に対応したデザインとする。

・**ユニバーサルデザイン**｜車いす使用者に配慮した高さや，弱視・色弱でも見やすい色彩など、だれもが利用可能なデザインとする。

・**安全性**｜不特定多数の方が集まる講義室等における避難ルートの表記など、安全性に配慮したサイン計画とする。

基本方針３．名古屋大学のアイデンティティを表出する調和のとれたデザイン

・**アイデンティティの表出**｜ UI カラーである NU グリーンを基調色とした NU マークを明示し、名古屋大学のアイデンティティを表出するデザインをめざす。

・**環境との調和**｜キャンパス内の環境の特質を活かし、調和を図るため、文字や図面によるサインは必要最小限にとどめる。

・**更新性**｜長期にわたり継続可能なサインシステムとして、新設・更新・維持・撤去に関する運用方針を定め、更新性にすぐれたデザインとする。

上記の基本方針を踏まえ、本マニュアルの改訂に際しては下記の方針のもと見直しを進めた。これらの方針に基づき、より分かりやすい、アクセシブルで効率的なキャンパスサイン計画の実現を目指す。

1. ユーザビリティの向上

・インタラクティブマップの改修・誘導と、スマートフォンを活用した誘導システムの導入により、来訪者の目的地到達をサポートする。

2. 明確な情報掲載基準の設定
・サインマニュアル上で掲載する組織の基準を明確化し、情報の一貫性と適切性を確保する。

3. ユニバーサルデザインの採用
・全学案内サインの配色を見直し、色覚障がいに配慮したカラーユニバーサルデザインを導入する。

4. 効率的で明確な維持管理体制の構築
・外構サイン（建物名サインを除く）の維持管理・更新を本部の予算区分とし、定期的な更新を確実に行う。
・臨時更新に関する明確なルールを設定し、部局との適切な役割分担を図る。

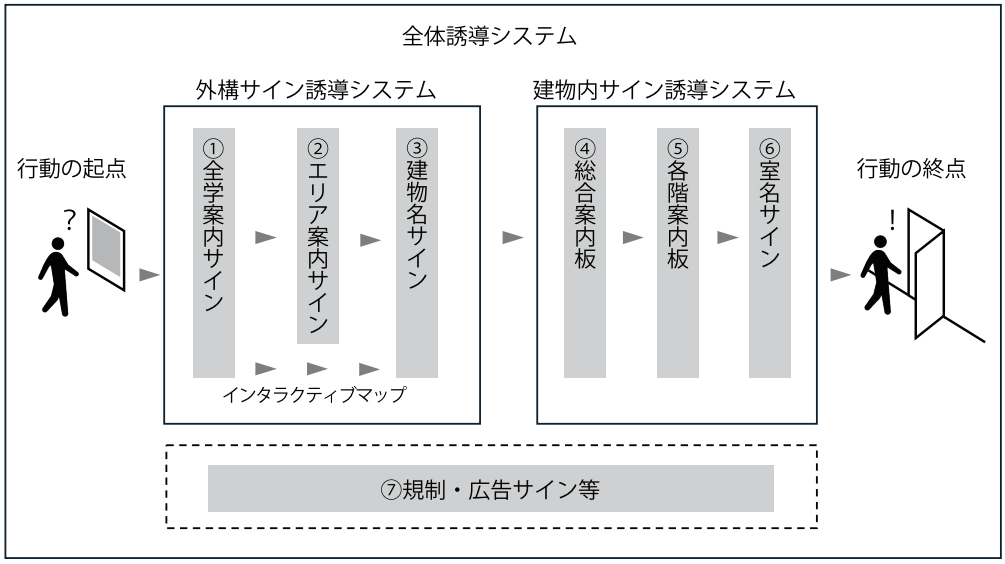


図 1-3　サインマニュアルが対象とするサインと階層的サインシステム

1-3　サイン計画の対象とシステム

〈サイン計画の対象〉

サイン計画の対象は、**名古屋大学のキャンパスに必要とされる外構、建物内におけるサイン**とする。なお、鶴舞・大幸・他キャンパスにおいては、病院などの特殊性もあるが 、基本的な考え方は本マニュアルを踏襲することとする。

各種サインのデザイン・設置場所等は、本マニュアルに沿って計画する。また、建物の建設状況や交通計画の変更等を勘案し、その位置・数量を状況に応じて決定する。新たに設置するサインは本マニュアルに準ることとするが、既存のサインは継承することも可とする。

〈サインシステム〉

サインによって人々を円滑に誘導するためには、案内サインが人々の動きに即して階層的な誘導システムとして設置されていることが必要である。以下にその構造を示す。(図 1-3，図 1-4)

（1）全体誘導システム

訪れた人の行動の起点から終点までをスムースに誘導するサインシステムとする。

（2）外構サイン誘導システム

キャンパスの入口から目的とする建物まで、案内範囲や方向を順にしぼる階層的サインシステムとする。具体的には、「 **①全学案内サイン→②エリア案内サイン→③建物名サイン** 」というようにシステム化する。**①全学案内サイン**に記載した QR コードをスマートフォンで読み取ってインタラクティブマップにアクセスし、位置情報の取得や経路検索により目的とする建物まで誘導することもできるようにする。また、サインは遠くからでも視認性の高い色彩を基調とする。

（3）建物内サイン誘導システム

主要な出入口から、「 **④総合案内板→⑤各階案内板→⑥組織・室名サイン** 」の順に行き先を誘導する階層的サインシステムとする。

（4）規制・広告サインシステム

キャンパス内には上記にあげた誘導サインの他、「**⑦規制・広告サイン等（車両や自転車の入場・駐停車位置を制限するサイン、店舗の PR サイン、イベントなどの告知サイン)**」がある。こうしたサインは設置期間、設置目的、設置主体が多岐に渡るが、誘導サインと同様キャンパス全体の中でシステム化することが必要である。

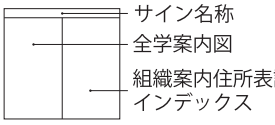
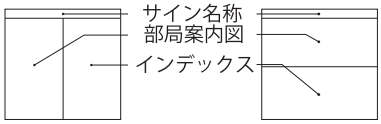
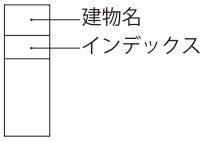
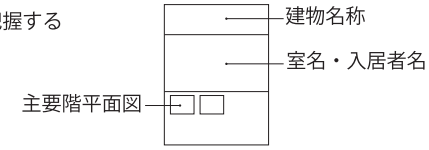
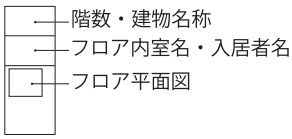
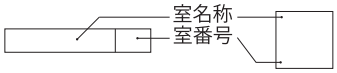
サインの種別		表示内容
外構サイン（4章）	①全学案内サイン	目的：キャンパス内のエリアを把握する ・エリア番号、アルファベット ・総合案内所、地下鉄出入り口、バス停 
	②エリア案内サイン	目的：周辺のエリア情報を把握する ・一定部局内の案内図 ・部局内の主な建物、専攻名 
	③建物名サイン	目的：建物名称を把握する ・建物に入っている部局、専攻名 
建物内サイン（5章）	④総合案内板	目的：建物内の全所室構成・フロア情報を把握する ・部局、専攻名、室名 ・主要階平面図 
	⑤各階案内板	目的：フロア内の室名・入居者名を把握する ・フロア内平面図 ・室名と入居者名 
	⑥組織・室名サイン等	目的：部屋名を把握する ・室名、室番号、入居者名 
規制・広告サイン等（6章）	⑦規制サイン・イベント情報掲示板・広告サイン等	目的：安全・規制・イベント情報を告知する ・交通標識、各種の規則、イベント情報案内

図 1-4　階層的サインシステムを構成するサインの種類と簡略図

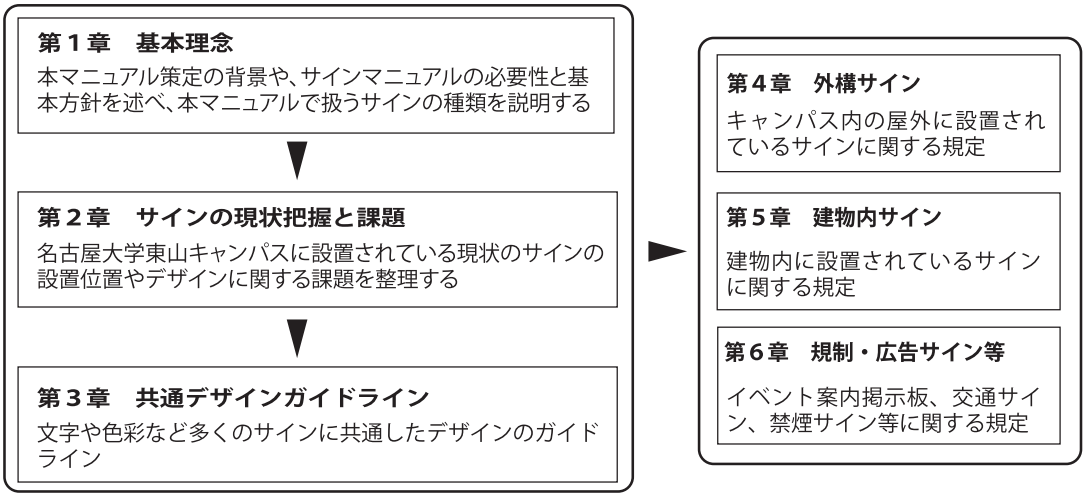


図 1-5　本マニュアルの構成

1-4　本マニュアルの構成（図 1-5）

本マニュアルでは、第１章で基本理念を述べ、第２章でサインの現状把握と課題を明らかにした上で、第３章で共通デザインガイドラインの策定を行う。さらに、続く３つの章でそれぞれ、第４章外構サイン、第５章建物内サイン、第６章その他案内サインについて規定する。

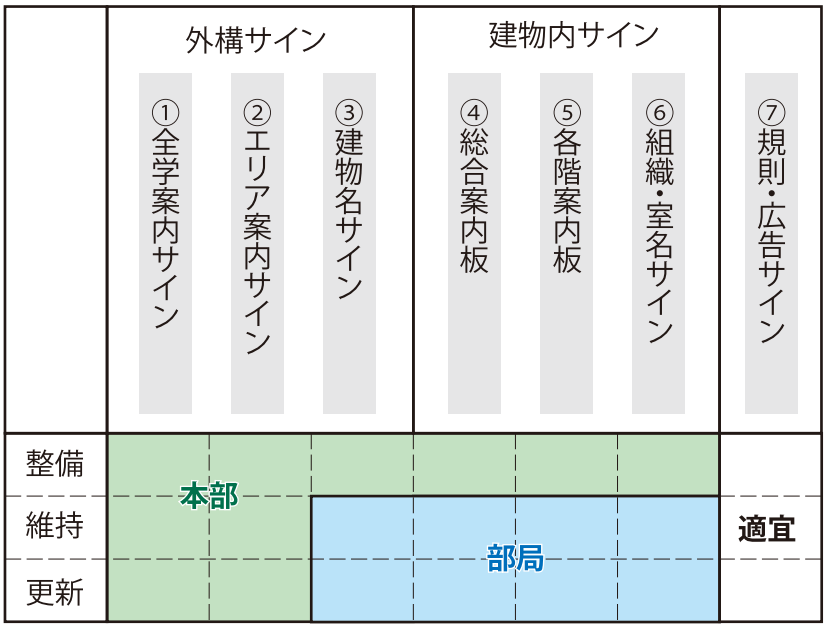


図 1-6　各サイン別整備主体

1-5　本マニュアルの運用（図 1-6）

・**マニュアルの準用**｜新築・大規模改修建物ではすべて本マニュアルに準用したサインを設置する。サイン工事は原則として建物建築工事に含むこととし、設計時には本マニュアルによるサイン計画に配慮した設計を行う。なお、全学的予算、部局予算いずれの整備においても、本マニュアルに則ることとする。

・**設計段階の検討**｜新築、および改修工事の付帯設備としてサインを整備する場合には、設置場所やサイズ等、その建物の壁面仕上や大きさに合わせて、納まりよく設置できるよう、建物の設計段階で検討することとする。

・**既存サインの更新**｜既存のサインについては順次、本マニュアルに沿って更新することとし、毎年の点検により情報の古いもの、重複するもの、仮設的なものなどから優先的に更新をはかることとする。

・**既存サインの撤去**｜現在キャンパス内にあり、全く使用されていない老朽化した掲示板や、誤った情報を載せた標識などは、早急に撤去する。

・**整備主体**｜外構サインについては原則として整備主体を以下のように規定する。

［本部］：「①全学案内サイン」および「②エリア案内サイン」の**整備・維持・更新**、「③建物名サイン」及び「④⑤⑥の建物内サイン」の**整備**。

［部局］：「③建物名サイン」及び「④⑤⑥の建物内サイン」の**維持・更新**。部局で独自に設置した「②エリア案内サイン」がある場合は、**維持・更新**。

※本部が「①全学案内サイン」及び「②エリア案内サイン」を**更新**するのは年に一度までとし、それ以外は部局の負担とする。

サインの現状把握と課題

Present Understand and Problem of Sign

2．1｜全学案内サイン
2．2｜エリア案内サイン
2．3｜矢印サイン
2．4｜建物名サイン
2．5｜建物内サイン
2．6｜規制・交通標識・広告サイン等

「名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2012」に基づき、これまで順次整備を進めてきたが、まだ十分に整備が進んだとは言えず、加えてこの 12 年の間で新たな課題も生まれてきている。第 2 章では、まず、東山キャンパスに設置されている全学案内サイン・エリア案内サイン・矢印サイン・建物名サイン・建物内サインの現状と課題を把握する。これらを受けて明らかとなった課題を整理し、よりわかりやすいキャンパスづくりを行うために、次章以降で行うサインシステムの策定に導くものとする。

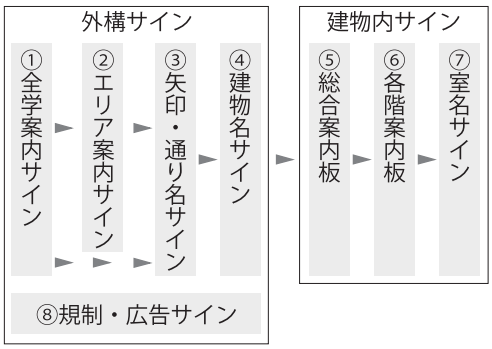


図 2-1 現状の階層的サインシステム

2-1　全学案内サイン

(1) 現状把握

全学案内サインは、東山キャンパス全体を包括するサインであり、地下鉄出入口やバス停付近、車両の出入口等のキャンパスエントランスに計 8 カ所設置されているが、予算確保の問題もあり、サインマニュアル 2012 で計画されていた位置への設置は十分に進んでいない（図 2-2）。

現状設置事例を図 2-3 に示すが、一部（②）を除き、サインマニュアル 2012 に基づきデザインの統一化が図られた。地下鉄出入口付近の特に人通りの多い箇所に設置している全学案内サインには公開施設や食堂・レストラン等の店舗情報も併せて掲載している（①③④）。

新たな組織等が増える都度、行間や配置を工夫して対応してきたが、限界が近づいており、分かりにくさに繋がっている。掲載する情報（組織等）の基準が明確に無いことが要因でもあるため、何かしらの基準を設ける必要がある。

また、サインマニュアル 2012 ではユニバーサルデザインに配慮したデザインを考案しているが、色弱の方への対応という観点では十分な検討ができていなかったため、一部の方にとって色の区別がつきづらいという意見がある。

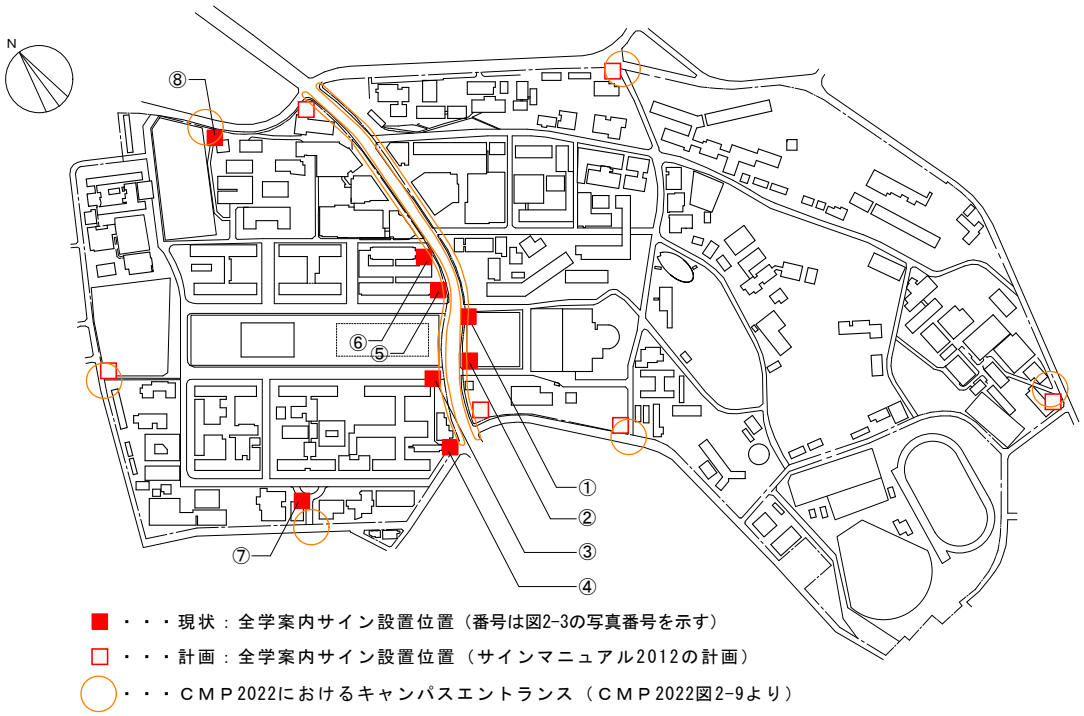
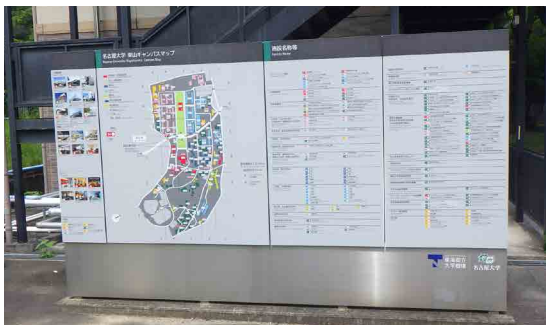


図 2-2　現状全学案内サイン設置位置

＜①

＜②

＜③



＜④

＜⑤

＜⑥

＜⑦

＜⑧

図 2-3　全学案内サイン例

（2）課題

・全学案内サインの設置位置について、全てのキャンパスエントランスへの設置が望ましいが、来訪者の主要な出入口に絞るなど現実的な計画への見直しの検討が必要である。
・サインに掲載する情報が過多な状況となっており、分かりにくさに繋がっているため、サイン表示内容の視認性を高めるとともに、情報の一貫性と適切性を確保するためにも、掲載する情報（組織等）の基準を明確化する必要がある。
・ユニバーサルデザインを深化させ、より多くの人が情報を認識できるよう、色覚の多様性に配慮した見分けやすい色彩計画へと改善することが求められる。

2-2　エリア案内サイン

（1）現状把握

エリア案内サインは、図 2-4 のとおり、現在東山キャンパス内に計 15 カ所設置されているが、キャンパス中央部の理・工学部周辺に偏っている。また、設置位置と同様に、エリア案内サインで表示されるエリアも偏りがあり、キャンパス全体を包括できているとは言えない。

サインマニュアル 2012 策定時にも同様の課題が挙げられ、それを踏まえた設置計画を立てたものの、予算確保の問題もあり十分に進んでいない。

現状設置事例を図 2-5 に示すが、エリア案内サインは、大きくスチール製枠タイプ、ステンレス製枠タイプ、ガラス面フィルムタイプ、ステンレスパネルタイプの 4 種類に分類される。また、サイズも設置場所によって異なり、掲載できる内容も差異がある。エリア案内サインは部局独自に設置したものが多く、全てを同じデザインで再設置することは予算的に困難であるため、ある程度のデザインの違いは許容すべきものと考えれば、概ねサインマニュアル 2012 のデザインの考え方に基づき整備できている。

設置位置によっては、キープランとしてキャンパス全体図を追加するなど、部分的に改善が図っているものもあるため、これらを全体の統一的なデザインとするか等の検討も行う必要がある。

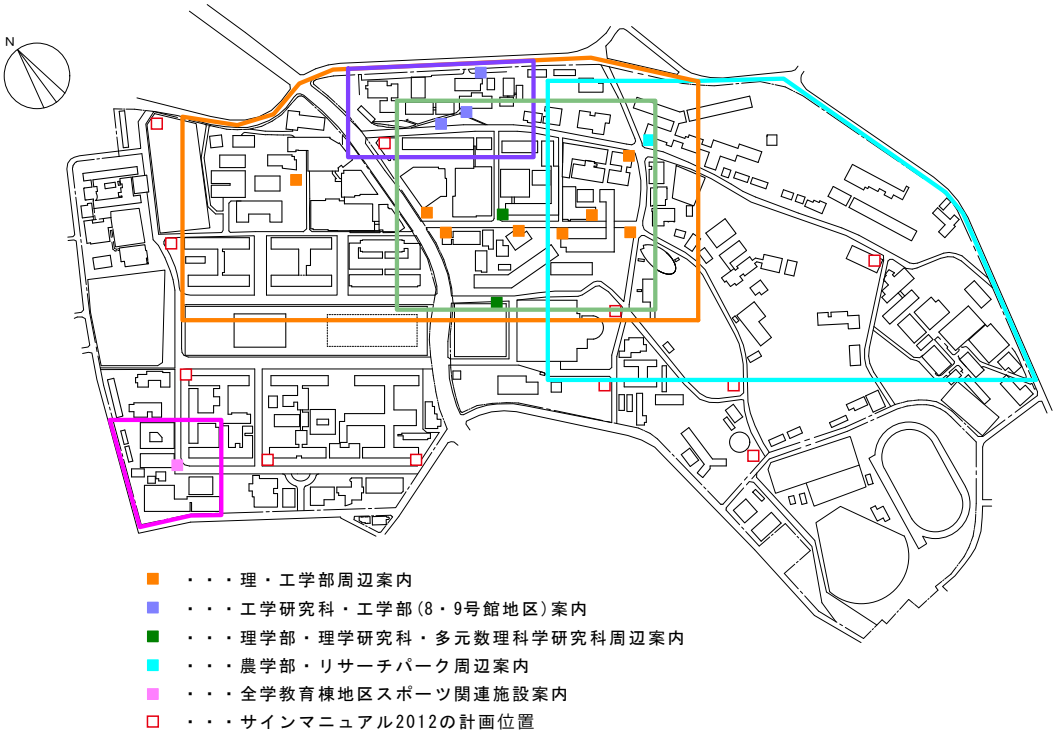


図 2-4　エリア案内サインの設置位置と包括範囲

① ステンレスパネルタイプ

② ステンレス製枠タイプ

③ ガラス面フィルムタイプ

④ スチール製枠タイプ

図 2-5 エリア案内サイン例

（2）課題

・エリア案内サインの設置位置や包括範囲は、キャンパス中央部の理・工学部周辺に偏っている。来訪者が広大なキャンパスにおいて目的地に達する上で、全学案内サインに続く道標として適切な位置へのエリア案内サインの設置は非常に重要な要素となるため、予算面を考慮しつつ、設置位置と包括範囲について再検証を行った上で、着実に設置を進めて行く必要がある。

2-3　矢印サイン（廃止予定）

（1）現状把握

矢印サインには建物や部局の名称とその方向を示す矢印が表示されており、現在東山キャンパス内に計 19 カ所設置されている（図 2-6）。サインマニュアル 2012 策定後に新しい矢印サインが 9 カ所設置されたものの、予算確保の問題もあり十分に進んでおらず、まだ古いタイプ（愛・地球博タイプ等も含む）の矢印サインの方が半数以上あり、デザインが統一されていない（図 2-7）。

サインマニュアル 2012 により表示建物に一定のルールを設けたものの、起点も複数存在することから、矢印による誘導には限界がある。矢印サインに掲載されていないと、目的地がその方向にはないものと誤解するという指摘もある。また、部局等の新設、改組が頻繁に行われているが、維持管理主体が部局であることから更新が追いついておらず、来訪者の混乱を招く要因となっている。

なお、サインマニュアル 2012 において通り名サインの案が提示されたが、通り名についてアンケートを行うなど検討を進めた結果、大学にとって浸透していない馴染みのない名称も多く、学内の理解が得られず、設置しないこととなった。

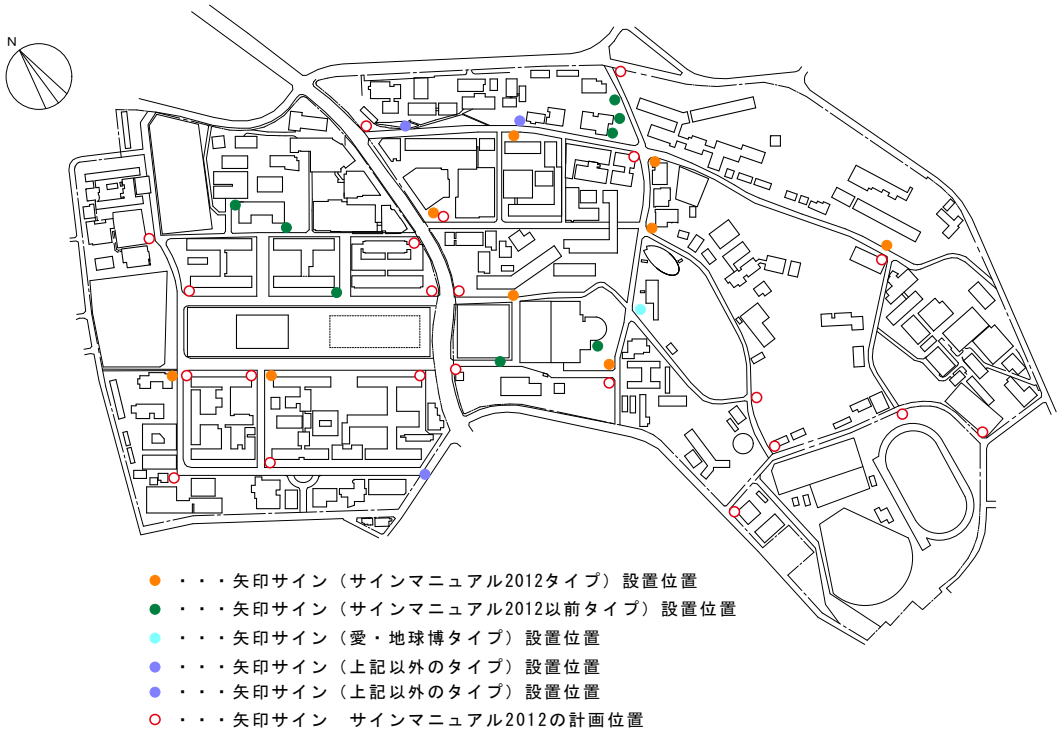


図 2-6　矢印サイン設置位置

①サインマニュアル 2012 タイプ

②サインマニュアル 2012 タイプ

③サインマニュアル 2012 以前タイプ

④愛・地球博タイプ

⑤その他タイプ

⑥その他タイプ

図 2-7　矢印サイン例

（2）課題

・矢印サインの設置と更新が十分にできておらず、逆に来訪者の混乱を招いている。矢印サインにより適切に誘導するためには、現状よりかなり多くの矢印サインを増設し、随時最新の情報への更新を図っていく必要があるが、予算の確保と維持管理のことを考えると、矢印サインによる誘導には限界を感じざるを得ない。矢印サインを取りやめることも含め、外構サインシステムの再構築について検討を行う必要がある。

2-4　建物名サイン

（1）現状把握

建物名サインは、ほとんどの建物で入口付近に設置されているが、一部の建物では道路に面して設置しており、どの建物の建物名サインか分かりにくいものもある（①②）。

主に自立型（①～⑤）のサインが設置されているが、一部外壁や出入口に建物名を記した壁面サインのみの設置としている建物もある（図 2-8）。

サインマニュアル 2012 策定後は、新築、大規模改修建物には原則新しいデザインの自立型サインを設置しているが、まだ策定前のデザインが数多く残っており、デザインにバラツキがある（図 2-9）。

なお、サインマニュアル 2012 策定時には自立型サインのデザインしか考案されておらず、壁面サインを設置する際はルールがなく設計者の判断に委ねられていたため、2018 年に一定のルールを設けて運用を図ってきた。

また、サインマニュアル 2012 によるデザインでは、周辺案内図を記載することとしたが、複数部局の情報があるため、更新主体が不明確であったこと、設置数が多く更新の負担が大きいことから、案内図の情報が更新されていないものが数多く見受けられた。

図 2-8　建物名サイン表示建物

①自立型（マニュアル 2012 対応）

②自立型（マニュアル 2012 対応）

③自立型（マニュアル 2012 対応以外）

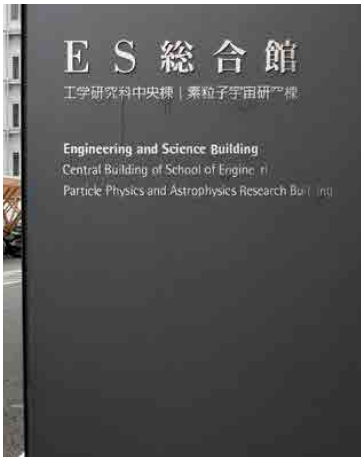
④自立型（マニュアル 2012 対応以外）

⑤自立型（マニュアル 2012 対応以外）

⑥壁面シール（シート貼り型）

⑦壁面サイン（面付型）

⑧壁面サイン（面付型）



⑨壁面サイン（切文字型）

⑩壁面サイン（切文字型）

図 2-9　建物名サイン例

（2）課題

・新しく整備した建物以外では建物名サインの更新（デザインの統一化）が進まないため、部局に更新を促す等の対策が必要である。

・周辺案内図の維持、更新が困難なため、古い情報のまま掲載することで逆に来訪者の混乱を招く恐れがあるため、省略することも検討する必要がある。

2-5　建物内サイン

（1）現状把握

①総合案内板 (図 2-10)

総合案内板は、建物内のすべての居室を示す案内板である。設置位置は、メインエントランスから入って視認されやすいところに設置されている。デザインとしては、この 12 年以内に新築・改修された多くの建物では、サインマニュアル 2012 にしたがって、組織名・室名・人名表記の方法や色彩計画について統一されたものとなっている。諸室の表示については、専攻ごとに並んでいるもの、階ごとに並んでいるもの、室名が五十音順で並んでいるものがある。各階平面図と周辺地図については、表示されているものとないものがある。

①

②

③

④

図 2-10　総合案内板例

②各階案内板 (図 2-11)

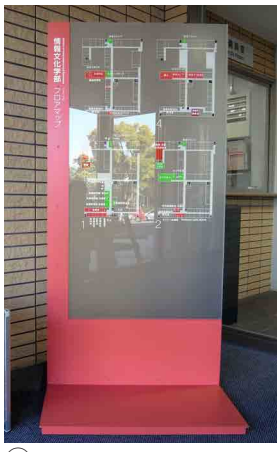
各階案内板は、各階のエレベーターホールや階段周辺に設置されている。サインマニュアル 2012 にしたがっており、設置階のすべての室名、入居者名、平面図が記載されている。レイアウトや図面の表示内容は建物によって違いがみられる。一部の学部では、自立型の案内板を設置している例も見られた。(⑤)

①

②

③

④



⑤

図 2-11　各階案内板例

③室名サイン (図 2-12)

室名サインは、すべての室の入口付近に設置されている。サインマニュアル 2012 に従いほとんどの建物で着脱式のプレートを使用しているが、その素材はスチール、プラスチックがあり、また講座名、室名、室番号の表記方法及び、役職名の有無や位置に違いがみられる。表記方法については、日英表記になっていない建物がある。講義室など室名変更の可能性が低い室では、カッティングシートで壁に直接貼られている建物もある。

図 2-12　室名サイン例

④その他サイン（図 2-13）

トイレ、ゴミ箱などの場所が分かるよう各所にピクトサインが設置されている（①②）。車椅子利用者の方や、子供連れの方が利用できる多目的トイレの整備が以前より進んでいるが、サインマニュアル 2012 では多目的トイレを示すサインのデザインが明確化されていなかったため、デザインがバラバラになっている（③）。加えて、サインマニュアル策定以降で、LGBT 等の方への配慮も大学として重要課題として位置付けられ、性別関係なく利用しやすいトイレも求められていたため、「だれでもトイレ」として新たに大学として名称及びサインのルールを設けて運用を図っている（④）。

また、サインマニュアル策定以降でネーミングライツ事業が開始され、学生ラウンジ等を中心に学生が集まりやすい部屋・スペースにおいて企業名などを付した愛称サイン等が設けられることとなったが（⑤⑥）、ルールが明確化されていないため、事業毎に個別判断するなど対応に苦慮している。

（2）課題

・サインマニュアル 2012 策定以降、「だれでもトイレ」やネーミングライツ事業などの運用が新たに始まっているので、新たな基準を設ける必要がある。

2-6　規制・交通標識・広告サイン等

（1）現状把握

①規制サイン・交通標識（図 2-14）

サインマニュアル 2012 に従い整備が進んでいる箇所もあるが、駐輪禁止・駐車禁止・進入禁止等のサインでまだ古いデザインのままのもの多く、デザインが統一されていない。

色弱の方やの車・自転車の運転者等から規制情報が見にくいという意見もあり、規制情報の文字色と下地の背景色について再検討する必要がある。

①　②　③　④

⑤　⑥　⑦　⑧

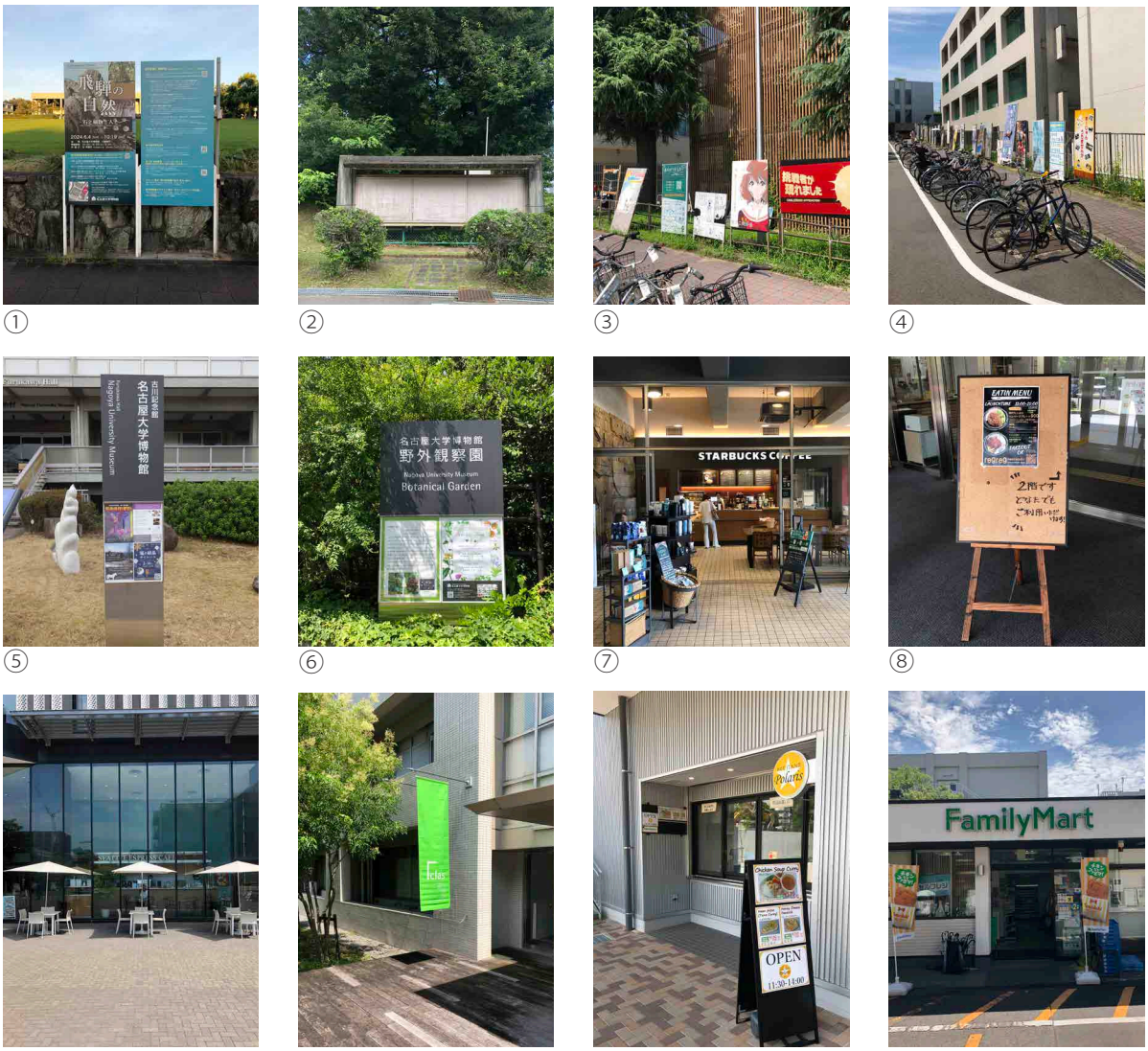
⑨　⑩　⑪　⑫

図 2-14　規制サイン・交通標識例

②イベント情報掲示板・店舗サイン等（図 2-15）

屋外のイベント掲示板はサインマニュアル 2012 に従った整備はできておらず、古いタイプの掲示板やベニヤによる仮設の看板が設置されている（①②）。学生が設置するサークル看板や大学祭等の看板も同様の状況であるが、こちらはマニュアルによる規制の対象としていない（③④）。

展示室の屋外サインは、博物館などでサインマニュアル 2012 に従い新たに整備されたが（⑤⑥）、まだ赤﨑記念研究館等未整備の箇所もある。また、店舗等のサインの形式（自立型、フラッグ型、壁面型）に統一されたルールがない状況である（⑦〜⑫）。



①　②　③　④

⑤　⑥　⑦　⑧

⑨　⑩　⑪　⑫

図 2-15　広告サイン例

③モニュメント等（図 2-16）

ノーベル賞受賞など顕著な業績に対する記念碑や、その場所の歴史を後世に伝える意義を持つモニュメントなど、キャンパス内には様々なモニュメント等（石碑、記念樹、校名サイン等）が設置されているが、デザインや設置位置について明確な基準等は設けられていない。

＜①　＜②　＜③

＜④　＜⑤　＜⑥

図 2-16　モニュメント等サイン例

（2）課題

・外部に設けるサインは名古屋市の屋外広告物条例による規制の対象になるため、設置に当たっては留意が必要である。特に、今後は屋外にネーミングライツによる愛称サイン等を設置するケースも出てくる可能性があるため、最低限守るべきルールを示す必要がある。

共通デザインガイドライン

Common Design Guideline

3．1｜設置位置・設置形態
3．2｜表記内容
3．3｜ロゴデザイン
3．4｜使用言語・書体
3．5｜色彩
3．6｜素材・仕上
3．7｜ピクトグラム

サイン計画を行う上では、高齢者や車いす使用者等を含む、あらゆる人にわかりやすいようにすることが重要である。そのためには、外構サインや建物内サインなど、キャンパス内に存在するあらゆるサインを統一するための、文字や色彩や素材等のデザインのガイドラインが必要である。本章では、キャンパス全体のサインを統一するための共通デザインガイドラインを定め、その内容について説明する。

3-1　設置位置・設置形態

外構サインは歩行者からの視認性が高く、歩行の障害にならない場所に自立する形で設置する。建物内サインは出入り口やエレベーター、主要階段の扉から視認性の高い壁面に設置する。外構サインの高さは 2,100mm で統一する。建物名サインは 1,800 ㎜とする。表記内容の多い全学案内サインとエリア案内サインは記載内容に応じて幅を大きくするが、その他のサインは幅 750mm で統一する。建物内サインは設置する壁面の大きさや表記情報量に応じて幅を変更するが、高さは天井高さに合わせて設置することとする。

各サインのレイアウトやデザインの詳細については、第 4 章、第 5 章で記述する。

3-2　表記内容

来訪者を円滑に誘導するために、表記内容に明確な階層性をもたせ、適切な位置に適切な情報を表すサインを設置する。具体的な表記内容は、起点となるキャンパスの入り口では部局や配置の全容を示し、順次誘導されるサインにおいて、該当部分の情報量を増やし、目的地に到達するよう体系化する。各サインの表記内容の詳細については、第 4 章、第 5 章で記述する。（表 3-1）

なお、住所番号として、キャンパス内を東西方向それぞれいくつかに分割し、建物の棟の位置を表すこととする。例えば「D4 ①」と付した建物はエリア番号が D 行 4 列目であることを示し、建物番号が①であることを示す（全学案内サイン参照）。

全学案内サイン及びエリア案内サインに掲載する組織は、名古屋大学教育研究組織規程に記載のある組織及び学生支援のための組織とする。

表 3-1　各サインの表記内容

			ランドマーク	公開施設名	一般建物名	エリア番号	部局名	専攻等名	講座名	公共的室名	一般室名	入居者氏名	室番号	ピクトグラム	ロゴ
外構サイン	全学・エリア案内サイン	マップ	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○
		インデックス	○	○	△	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
	建物名サイン		△	△	○	○	○	△	×	×	×	×	×	×	○
建物内サイン	総合案内板	フロア案内図	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×
		インデックス	×	×	×	×	○	○	△	○	△	○	○	×	
	各階案内板	フロア案内図	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×
		インデックス	×	×	×	×	○	○	△	○	○	○	○	×	
	室名サイン		×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	×

○：表記する　×：表記しない　△：状況に応じて表記する

3-3　ロゴデザイン

名古屋大学では、ビジュアルイメージの統一化を図るため、ロゴタイプを制定し、シンボルマーク（学章）及びロゴタイプの組み合わせを「名大マーク」と呼んでいる。「名古屋大学 UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）デザインシステムマニュアル」に沿って、全学的に名大マークの統一的な運用をすることで UI の確立を目指しているため、学内に数多く設置されるサインにも、名大マークを積極的に表記することとする。また、「東海国立大学機構ロゴマニュアル」に沿って、東海国立大学機構のロゴマークを併記したコンポジットロゴとする。（図 3-1）

コンポジットロゴを記載する位置については、第 4 章、第 5 章、第 6 章で記述する。

図 3-1　コンポジットロゴ

3-4　使用言語・書体

現在、キャンパス内の多種多様なサインに用いられている文字には様々な文字フォントや大きさのものが混在している。そのため、本節では原則としてキャンパス内のすべてのサインで使用する文字の基準を原則として以下のように定める。（表 3-2）

- 日本語、英語併記とする。
- 書体は日本語は「新ゴ」、英語は「Rotis Semi Sans」とする。
- 日本語は全角、英語と数字は半角で表記し、原則として文字幅の拡大縮小を行わない。
- 文字の大きさ・太さは視認性を確保しつつ、サイン全体のバランスを考慮した大きさとし、案内板ごとに定める。（4・5 章で詳細説明）

但し、期間が限定されている掲示など、各部局や本部が設置する暫定的なサインについては「ＭＳゴシック」など汎用フォントの使用も認める。

表 3-2　文字規定

規定フォント			使用例
和文	漢字	新ゴ L 新ゴ R	名古屋大学東山環境工学 名古屋大学東山環境工学
	ひらがな	新ゴ L 新ゴ R	なごやだいがくひがしやま なごやだいがくひがしやま
	カタカナ	新ゴ L 新ゴ R	ナゴヤダイガクヒガシヤマ ナゴヤダイガクヒガシヤマ
欧文	小文字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	大文字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
	数字	Rotis Semi Sans Std 45 Light Rotis Semi Sans Std 55	1234567890 1234567890

3-5　色彩

サインの目的である誘導をより効果的かつ、美的に表現するために、遠くからでも視認性のよい色彩を基調とする。「濃は不屈・永遠を表し、緑は若さを表す」とされ、従来より親しまれてきた名古屋大学のスクールカラー「濃緑」であるが、UI カラーとして制定された「濃緑」を基本としつつ、各部局で使用する色彩（部局カラー）を定め、案内図や室名サイン等で共通して使用する（表 3-3）。

なお、全学案内サイン及びエリア案内サインなどの外構サインは、色覚障害に配慮した表 3-4 の色彩計画を採用する。

表 3-3　部局カラーの色彩計画

	色彩	対象組織等	備考
基本7色	[A] UI カラー	全学共通施設・附置研究所・センター等 DIC-N848 C100 M0 Y71 K43 (PANTONE 342C)	
	[B] 高彩度色	公開施設・本部事務局 DIC 116 C0 M95 Y92 K0 厚生施設・生協・食堂等 DIC 123 C0 M35 Y100 K0	学外利用者が多い施設のため識別性を重視する
	[C] 部局カラー 1	理系部局： 理学研究科・理学部 DIC 425 C86 M62 Y32 K0 生命農学研究科・農学部 DIC 360 C30 M3 Y92 K0 工学研究科・工学部 DIC 69 C62 M14 Y0 K0	工学部系：寒色、農学系：黄緑色
	[D] 部局カラー 2	文系・文理連携等 DIC 258 C3 M36 Y15 K10	
補助色	[E] 各文系部局・ 独立研究科カラー	文学部 DIC 2009 C3 M36 Y15 K0 教育学研究科　教育学部 DIC 32 C0 M15 Y53 K0 法学研究科　法学部 DIC 204 C0 M56 Y100 K0 経済学研究科　経済学部 DIC 307 C52 M88 Y96 K0 情報文化学部 DIC 294 C0 M80 Y58 K0 国際開発研究科 DIC 314 C25 M56 Y98 K0 国際言語文化研究科 DIC 286 C34 M100 Y59 K0 多元数理研究科 DIC 440 C72 M59 Y0 K0 情報科学研究科 DIC 452 C35 M41 Y0 K0 環境学研究科 DIC 134 C87 M0 Y52 K0 創薬科学研究科 DIC 256 C100 M96 Y12 K0	理系は寒色、文系は暖色を用いる。
	[F] サインベース色	サイン下地（上部） DIC 516 C86 M83 Y82 K10 建物内サイン下地（下部） DIC 614 C31 M16 Y16 K0 廊下（フロア図） DIC 142 C70 M50 Y0 K0 展示室等（フロア図） DIC 86 C0 M20 Y100 K0 外構（フロア図） DIC 651 C0 M0 Y0 K40	低明度色を基本とし、必要に応じて高明度色とする。
	[G] 文字色	文字 DIC 582 C0 M0 Y0 K100 文字 DIC 583 C0 M0 Y0 K0	下地が淡い色彩の場合黒、濃い色彩の場合は白

表 3-4　外構サインの色彩計画

色彩	色彩	備考
[A] 部局建物色	全学共通施設・附置研究所・センター等 46-60T C75 M0 Y65 K0 公開施設・本部事務局 05-30T C42 M100 Y100 K9 厚生施設・生協・食堂等 15-65X C0 M45 Y100 K0 理学研究科・理学部 72-40T C100 M45 Y0 K0 生命農学研究科・農学部 25-90H C0 M0 Y40 K0 工学研究科・工学部 69-70P C55 M0 Y0 K0 文系・文理連携等 05-80L C0 M25 Y15 K0	工学部系：寒色、 農学系：黄緑色
[B] サインベース色	外構サイン下地 75-80B C15 M10 Y10 K0 外構（全学案内図） 75-50C C18 M10 Y0 K55 道路 N-93 C0 M0 Y0 K0	低明度色を基本とし、必要に応じて高明度色とする。
[C] 文字色	文字 N-15 C50 M50 Y50 K100 文字 N-93 C0 M0 Y0 K0	下地が淡い色彩の場合黒、濃い色彩の場合は白

※一つの建物に複数の部局が存在する場合は、建物を管理する部局の色、もしくは最大２部局の色までを使用する。

3-6　素材・仕上

サインの文字板やフレーム等の素材・仕上はキャンパス全体の景観の印象に大きな影響を与えるため、サインの素材・仕上の統一を図り、以下のような基準を定める。

【内外サイン共通】耐候性、耐食性を考慮した素材を用いる。（詳細はサインごとに定める。例：図 3-2、3-5）
【外部サイン】外構サインの脚部はステンレスヘアライン仕上げを基本とし、サイン面は耐候性のあるカッティングシートを用いる。上部の着色部分は焼き付け塗装を基本とする。（例：図 3-2）
【内部サイン】表面は耐候性のフィルムに印刷したものを用いるなど、変更への対応を可能とし、適宜、着脱可能な仕様とする（例：図 3-3、3-4）。

情報をわかりやすく伝えるために図を用いた表現を行うピクトグラムは建物内外で用いられるが、以下にその規定を定め、デザインの統一を図る。

・原則 JIS 規格（図 3-6）及びそれに準ずるピクトグラム（図 3-7）を使用する。
・外構、建物内サインとも、図 3-6、図 3-7 で不足と判断された場合には、JIS 規格を参考にして、新たに製作することも可能とする。
・トイレのピクトグラムについては、JIS 規格によらず男子を青、女子を赤とすることも可とする。
・実験室危険物サインのピクトグラムについては、６- ６危険物表示サインに示す。

図 3-2　建物名サイン

図 3-3　室名サイン　素材表面

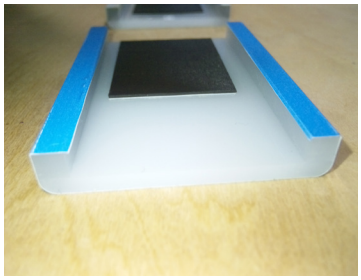


図 3-4　室名サイン　素材裏面

図 3-5　ステンレスサイン

3-7　ピクトグラム

図 3-6　ピクトグラム（JIS 規格）

図 3-7　ピクトグラム（JIS 規格以外）

外構サイン
Exterior Sign

4．1｜外構サインの配置
4．2｜全学案内サイン
4．3｜エリア案内サイン
4．4｜建物名サイン

2 章では、現状のサインの課題を把握し、3 章ではその課題に対応すべく、外構・建物内に共通するデザインガイドラインを定めた。本章では、「外構サイン（全学案内サイン、エリア案内サイン、建物名サイン）」について、設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

4-1　外構サインの配置

キャンパスをあらゆる人に分かりやすく、アクセスしやすいものとするためには、サインの配置計画（位置・情報・大きさ等）が極めて重要となる。無計画なサイン配置は、サインの量の増大や氾濫を招くだけだなく、来訪者の迷いを引き起こす原因ともなる。

本章では、2 章で把握した現状サインの課題を元に、「サインマニュアル 2012」を配置計画を見直し、新しい「アクションプラン」を提示する（図 4-1）。

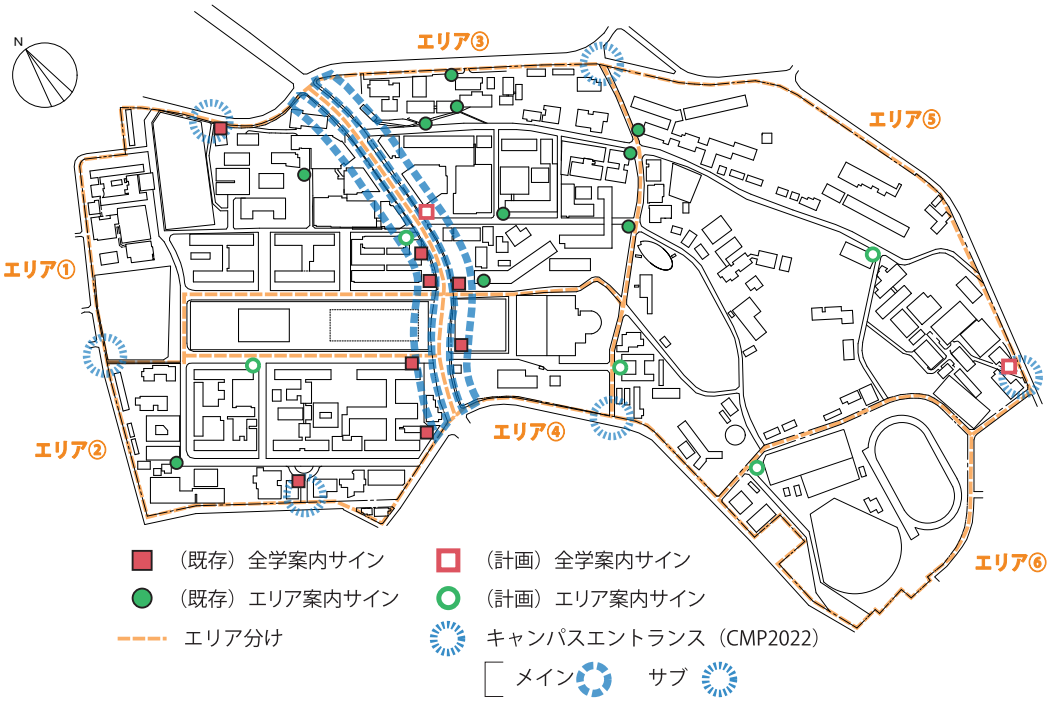


図 4-1　外構サイン設置計画ロケーションプラン

4-2　全学案内サイン

全学案内サインは名古屋大学東山キャンパス全域の案内を目的としている。キャンパスのエントランス付近及びバス停、地下鉄入口付近に設置され、キャンパスに来た人が最初に見るサインであり、キャンパス全体を包括するものである。

（1）設置位置（図 4-1）

・キャンパスのエントランス付近及びバス停、地下鉄入口付近に設置する。

（2）構成内容（図 4-2）

・①キャンパス名称、②ロゴマーク、③全学案内図、④インデックスで構成する。
・地下鉄出口の近くなど、人通りの多い場所では横長タイプの全学案内サイン（図 4-3) を設置し、一般の方が多く利用する店舗や公開施設を写真付きで掲載する場合ある。
・それぞれの文字規定を表 4-1 に示す。

①キャンパス名称

・日本語は 250pt（100mm）程度、英語は 90pt（40mm）程度とするが、看板の大きさに合わせて適宜に文字サイズ調整する。
・文字の太さは日本語、英語共に新ゴ R とする。
・左寄せとする。

②ロゴマーク

・東海国立大学機構・名古屋大学のロゴマークを右上に記載する。

表 4-1　全学案内図・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
全学案内図	公開施設	赤字・15mm 程度・M	赤字・13mm 程度・R	
	総合案内所	黒字・20mm 程度・M	黒字・17mm 程度・R	電話番号：黒字・17mm 程度・R
	現在地	黒字・20mm 程度・B	黒字・17mm 程度・B	
インデックス	組織名称	黒字・17mm 程度・M	黒字・13mm 程度・M	左寄せとする。
	併記する研究科	黒字・17mm 程度・M	黒字・9mm 程度・M	左寄せとする。
	施設名称	黒字・8mm 程度・M	黒字・7.5mm 程度・M	左寄せとする。

③全学案内図（図 4-4）

ⅰ）表示範囲

・東山キャンパス全体を表示する。
・A~F の行分割、１～５の列分割を行い、キャンパスをグリッド分けする。
・各グリッド内に位置する施設にはグリッド番号と共に北西から南東へ向かって順に①②…の番号を振り、記載する。
・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 100mm 程度とし、3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

ⅱ）施設名称

・多くの来訪者が予想される公開施設や、キャンパス内のランドマークとして位置づけられる建物には、赤字（C0 M100 Y100 K0）で施設名称を表記する。
・総合案内所（守衛）は黒字で表記し、電話番号も併記する。
・現在地を赤枠で囲って表記する。
・それぞれの施設の文字（色、大きさ、太さ）について定める（表 4-1）。

ⅲ）ピクトグラム

・総合案内所、食堂、信号機、郵便局、地下鉄出入り口等には 3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。
・ピクトグラムの大きさは幅 12mm 程度、高さ 12mm 程度とする。
・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 100mm 程度とし、3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

ⅳ）QR コード

・全学案内図の右下に、名古屋大学インタラクティブマップを閲覧するための QR コードを掲載する。

④インデックス（図 4-5）

・インデックス左側に学部等「組織名称」を、右側にその組織が入居する「施設名称」を記載する。

ⅰ）組織名称

・公開施設や食堂・売店等、多くの来訪者が予想される施設をインデックス上部に、学部等、主に学内利用者が多い施設をインデックス下部に記載する。
・大学院の研究科がある場合には学部名称の右横に併記する。

ⅱ）施設名称（図 4-6）

・施設内に記念施設等がある場合には（　）内に記載する。　例：博物館（古川記念館）

ⅲ）住所番号（図 4-6）

・施設名称の左横に記載する。
・高さ 13mm 程度、幅 30mm 程度とする。
・色彩計画（3 章 5 節）において組織ごとに定められた色彩を用いる。
・記号の凡例として、D ３⑤　は全学案内図において D 行 3 列の 5 番の建物を示す。

（3）照明

・夜間のための照明設備を設置する。

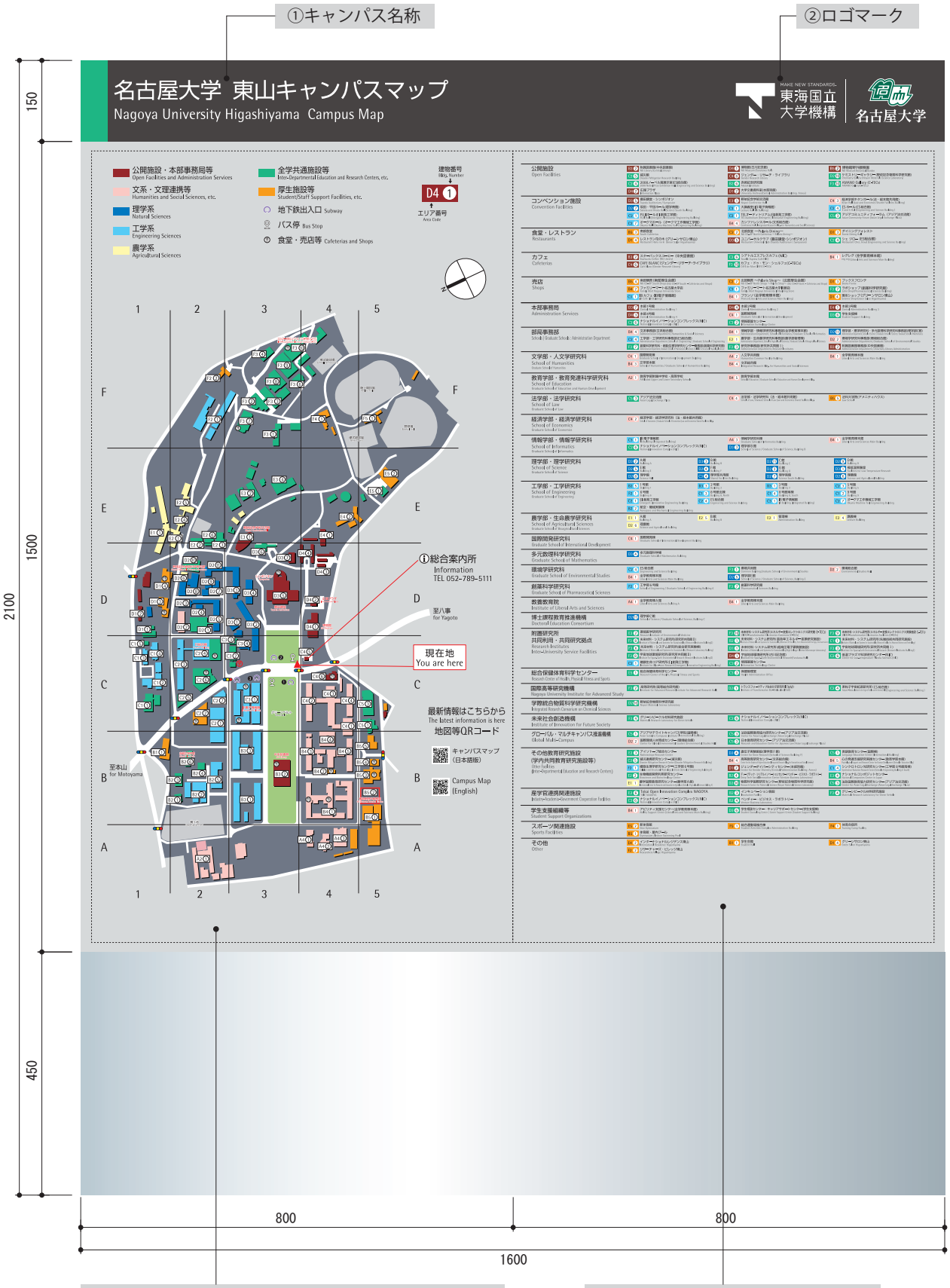

①キャンパス名称
②ロゴマーク
名古屋大学 東山キャンパスマップ
Nagoya University Higashiyama Campus Map
東海国立大学機構
名古屋大学
公開施設・本部事務局等
Open Facilities and Administration Services
文系・文理連携等
Humanities and Social Sciences, etc.
理学系
Natural Sciences
工学系
Engineering Sciences
農学系
Agricultural Sciences
全学共通施設等
Inter-Departmental Education and Research Centers, etc.
厚生施設等
Student/Staff Support Facilities, etc.
地下鉄出入口 Subway
バス停 Bus Stop
食堂・売店等 Cafeterias and Shops
建物番号
Bldg. Number
D4 1
エリア番号
Area Code
総合案内所
Information
TEL 052-789-5111
至八事
for Yagoto
現在地
You are here
最新情報はこちらから
The latest information is here
地図等QRコード
キャンパスマップ
(日本語版)
Campus Map
(English)
至本山
for Motoyama
150
1500
2100
450
800
800
1600
③全学案内図
i) 表示範囲　ii) 施設名称　iii) ピクトグラム　iv)QR コード
④インデックス
i) 組織名称　ii) 施設名称　iii) 住所番号

図 4-2　全学案内サイン

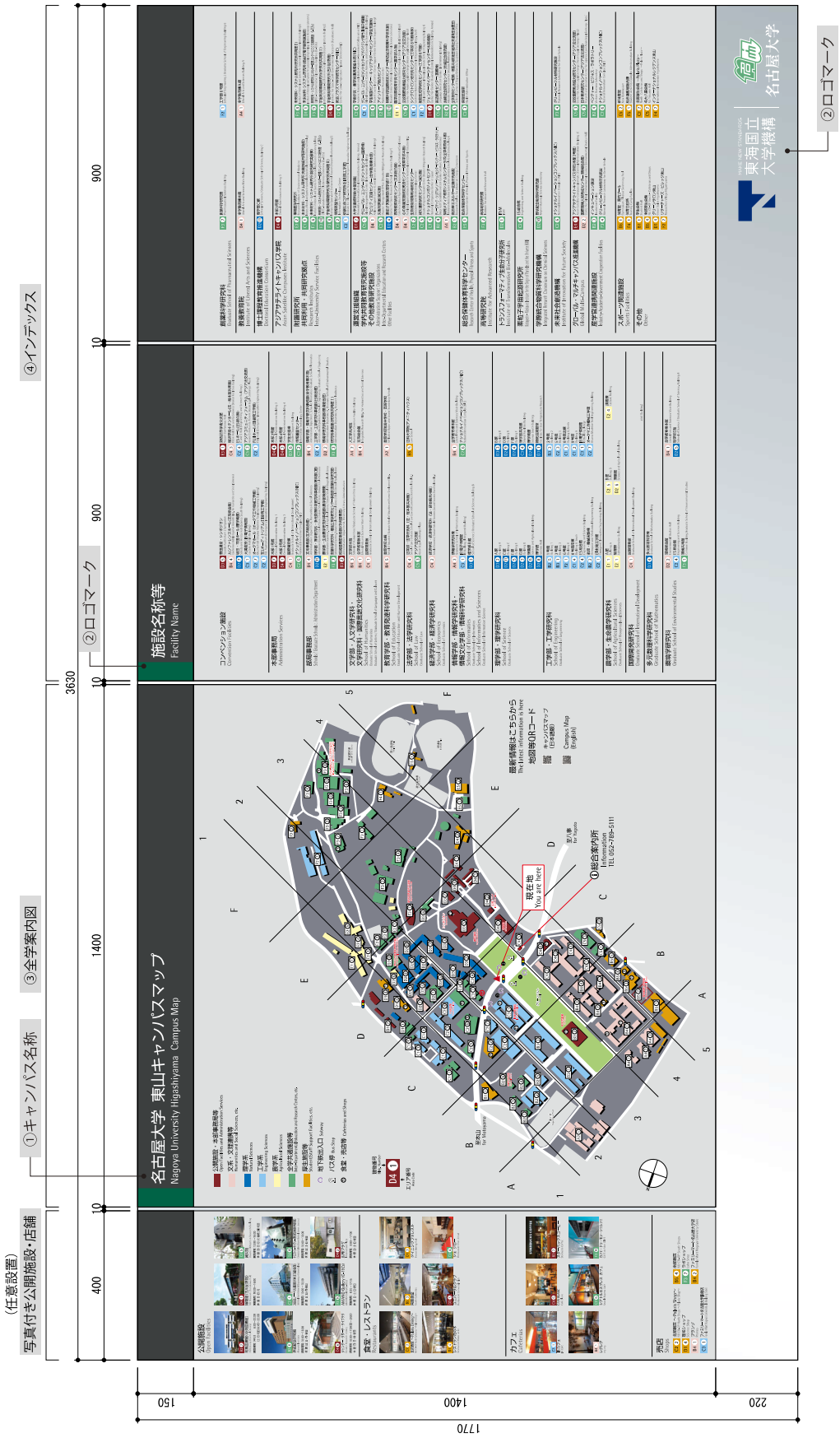
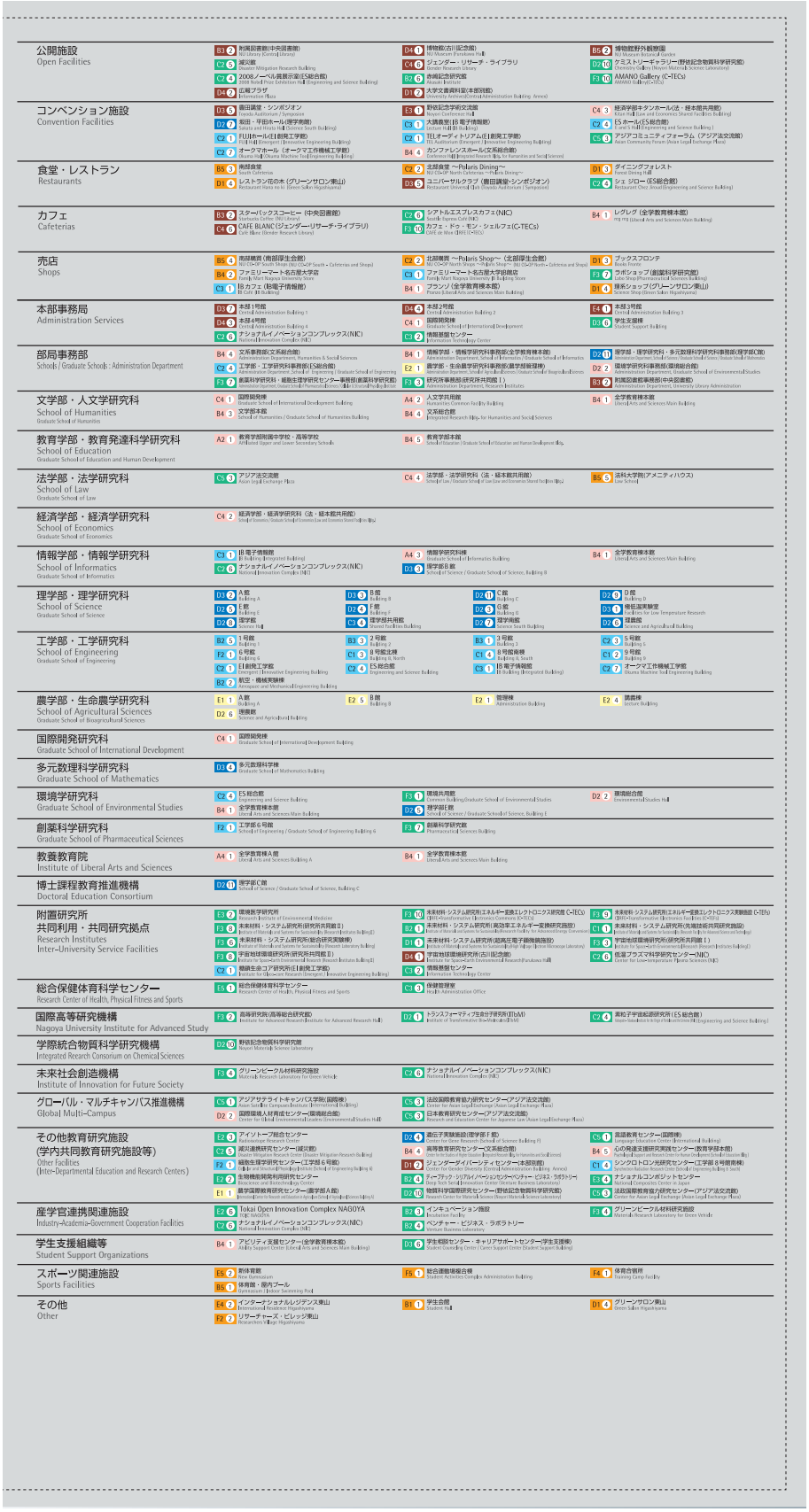


図 4-3　全学案内サインイメージ（横長タイプ）

公開施設・本部事務局等
Open Facilities and Administration Services
文系・文理連携等
Humanities and Social Sciences, etc.
理学系
Natural Sciences
工学系
Engineering Sciences
農学系
Agricultural Sciences
全学共通施設等
Inter-Departmental Education and Research Centers, etc.
厚生施設等
Student/Staff Support Facilities, etc.
地下鉄出入口 Subway
バス停 Bus Stop
食堂・売店等 Cafeterias and Shops
建物番号
Bldg. Number
D4 1
エリア番号
Area Code
総合案内所
Information
TEL 052-789-5111
至八事
for Yagoto
現在地
You are here
最新情報はこちらから
The latest information is here
地図等QRコード
キャンパスマップ
(日本語版)
Campus Map
(English)
至本山
for Motoyama

図 4-4　全学案内図



公開施設 Open Facilities	B3 2 附属図書館(中央図書館) NU Library (Central Library) C2 5 減災館 Disaster Mitigation Research Building C2 4 2008ノーベル賞展示室(ES総合館) 2008 Nobel Prize Exhibition Hall (Engineering and Science Building) D4 2 広場プラザ Information Plaza	D4 1 博物館(古川記念館) NU Museum (Furukawa Hall) C4 6 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ Gender Research Library B2 6 赤崎記念研究棟 Akasaki Institute D1 2 大学文書資料室(本部別館) University Archives(Central Administration Building Annex)	B5 2 博物館野外観察園 NU Museum (Furukawa Hall) D2 10 クミストリーギャラリー(野依記念物質科学研究館) Chemistry Gallery (Noyori Material Science Laboratory) F3 10 AMANO Gallery (C-TECs) AMANO Gallery(C-TECs)
コンベンション施設 Convention Facilities	D3 6 飯田講堂・シンポジオン Iiyoshi Auditorium / Symposium D2 2 坂田・平田ホール(理学南館) Sakata and Hirata Hall (Science South Building) C2 1 FUJIホール(E1創発工学館) FUJI Hall (Emergent / Innovative Engineering Building) C2 7 オークマホール (オークマエ作機械工学館) Okuma Hall (Okuma Machine Tool Engineering Building)	E3 1 野依記念学術交流館 Noyori Conference Hall C3 1 大講義室(B電子情報館) Lecture Hall (B Building) C2 1 TELオーディトリアム(E1創発工学館) TEL Auditorium (Emergent / Innovative Engineering Building) B4 4 カンファレンスホール(文系総合館) Conference Hall (Humanities and Social Sciences)	C4 3 経済学部キタンホール(法・経本館共用館) Kitan Hall (Law and Economics Shared Facilities Building) C2 4 ES ホール(ES総合館) E.S. Hall (Engineering and Science Building) C5 3 アジアコミュニティフォーラム (アジア法交流館) Asian Community Forum (Asian Legal Exchange Plaza)
食堂・レストラン Restaurants	B5 3 南部食堂 South Cafeteria D1 4 レストランHOホ (グリーンサロン東山) Restaurant Hana no ki (Green Salon Higashiyama)	C2 2 北部食堂 ～Polaris Dining～ NU Co-OP North Cafeteria ～Polaris Dining～ D3 6 ユニバーサルクラブ (飯田講堂・シンポジオン) Restaurant Universal club (Iiyoshi Auditorium / Symposium)	D1 3 ダイニングフォレスト Forest Dining Hall C2 4 シェ ジロー(ES総合館) Restaurant Chez Jiroud (Engineering and Science Building)
カフェ Cafeterias	B3 2 スターバックスコーヒー (中央図書館) Starbucks Coffee (NU Library) C4 6 CAFE BLANC(ジェンダー・リサーチ・ライブラリ) Cafe Blanc (Gender Research Library)	C2 6 シアトルエスプレスカフェ(NIC) Seattle Espresso Cafe (NIC) F3 10 カフェ・ド・モン・シェルフェ(C-TECs) Café de Mon (NIC)(C-TECs)	B4 1 レグレグ (全学教育棟本館) reg reg (Liberal Arts and Sciences Main Building)
売店 Shops	B5 4 南部購買 (南部厚生会館) NU Co-OP South Shop (Nu Co-OP South + Cafeterias and Shops) B4 2 ファミリーマート名古屋大学店 Family Mart Nagoya University Store C3 1 B カフェ (B電子情報館) B Cafe (B Building)	C2 2 北部購買 ～Polaris Shop～ (北部厚生会館) NU Co-OP North Shop ～Polaris Shop～ (Nu Co-OP North + Cafeterias and Shops) C3 1 ファミリーマート名古屋大学B棟店 Family Mart Nagoya University B Building Store B4 1 プランソ (全学教育棟本館) Prasoo (Liberal Arts and Sciences Main Building)	D1 3 ブックスフロンテ Books Frontie F2 7 ラボショップ (創薬科学研究館) Labo Shop (Pharmaceutical Sciences Building) D1 4 理系ショップ(グリーンサロン東山) Science Shop (Green Salon Higashiyama)
本部事務局 Administration Services	D3 7 本部1号館 Central Administration Building 1 D4 5 本部4号館 Central Administration Building 4 C2 6 ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC) National Innovation Complex (NIC)	D4 4 本部2号館 Central Administration Building 2 C4 1 国際開発棟 Graduate School of International Development C3 2 情報基盤センター Information Technology Center	E4 1 本部3号館 Central Administration Building 3 D3 6 学生支援棟 Student Support Building
部局事務部 Schools / Graduate Schools : Administration Department	B4 4 文系事務部(文系総合館) Administration Department, Humanities & Social Sciences C2 4 工学部・工学研究科事務部(ES総合館) Administration Department, School of Engineering / Graduate School of Engineering F3 7 農薬科学研究所 / 植生生理学研究センター事務部(農薬科学研究館) Administration Department, Global Center for Phytochemical Research / Plant Physiology Research Center	B4 1 情報学部・情報学研究科事務部(文学教育棟本館) Administration Department, School of Informatics / Graduate School of Informatics E2 1 農学部・生命農学研究科事務部(農学部新館) Administration Department, School of Agricultural Sciences / Graduate School of Bioagricultural Sciences F3 3 研究所事務部(研究所共同館 I) Administration Department, Research Institutes	D2 11 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部(理学部C館) Administration Department, School of Science / Graduate School of Mathematics D2 2 環境学研究科事務部(環境総合館) Administration Department, Graduate School of Environmental Studies B1 2 附属図書館事務部(中央図書館) Administration Department, University Library Administration
文学部・人文学研究科 School of Humanities Graduate School of Humanities	C4 1 国際開発棟 Graduate School of International Development Building B4 3 文学部本館 School of Humanities / Graduate School of Humanities Building	A4 2 人文学共用館 Humanities Common Facility Building B4 4 文系総合館 Integrated Research Bldg. for Humanities and Social Sciences	B4 1 全学教育棟本館 Liberal Arts and Sciences Main Building
教育学部・教育発達科学研究科 School of Education Graduate School of Education and Human Development	A2 1 教育学部附属中学校・高等学校 Affiliated Upper and Lower Secondary Schools	B4 5 教育学部本館 School of Education / Graduate School of Education and Human Development Bldg.	
法学部・法学研究科 School of Law Graduate School of Law	C5 3 アジア法交流館 Asian Legal Exchange Plaza	C4 4 法学部・法学研究科 (法・経本館共用館) School of Law / Graduate School of Law (Law and Economics Shared Facilities Bldg.)	B5 5 法科大学院(アメニティハウス) Law School
経済学部・経済学研究科 School of Economics Graduate School of Economics	C4 2 経済学部・経済学研究科 (法・経本館共用館) School of Economics / Graduate School of Economics (Law and Economics Shared Facilities Bldg.)		
情報学部・情報学研究科 School of Informatics Graduate School of Informatics	C3 1 B 電子情報館 B Building (Integrated Building) C2 6 ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC) National Innovation Complex (NIC)	A4 3 情報学研究科棟 Graduate School of Informatics Building D3 3 理学部B館 School of Science / Graduate School of Science, Building B	B4 1 全学教育棟本館 Liberal Arts and Sciences Main Building
理学部・理学研究科 School of Science Graduate School of Science	D3 2 A館 Building A D2 5 E館 Building E D2 8 理学館 Science Hall D3 5 B館 Building B D2 4 F館 Building F C3 4 理学部共用館 Shared Facilities Building D2 11 C館 Building C D2 6 G館 Building G D2 7 理学南館 Science South Building D2 9 D館 Building D D3 1 機能温室験室 Facilities for Low Temperature Research D2 6 理農館 Science and Agricultural Building	
工学部・工学研究科 School of Engineering Graduate School of Engineering	B2 5 1号館 Building 1 F2 1 6号館 Building 6 C2 1 E1創発工学館 Emergent / Innovative Engineering Building B2 2 航空・機械実験棟 Aerospace and Mechanical Engineering Building B3 3 2号館 Building 2 C1 3 8号館北棟 Building 8, North C2 4 ES総合館 Engineering and Science Building B3 1 3号館 Building 3 C1 4 8号館南棟 Building 8, South C3 1 B電子情報館 B Building (Integrated Building) C2 3 5号館 Building 5 C1 2 7号館 Building 7 C2 7 オークマ工作機械工学館 Okuma Machine Tool Engineering Building	
農学部・生命農学研究科 School of Agricultural Sciences Graduate School of Bioagricultural Sciences	E1 1 A館 Building A D2 6 理農館 Science and Agricultural Building E2 5 B館 Building B E2 1 管理棟 Administration Building E2 4 講義棟 Lecture Building	
国際開発研究科 Graduate School of International Development	C4 1 国際開発棟 Graduate School of International Development Building	
多元数理科学研究科 Graduate School of Mathematics	D3 4 多元数理科学棟 Graduate School of Mathematics Building	
環境学研究科 Graduate School of Environmental Studies	C2 4 ES総合館 Engineering and Science Building B4 1 全学教育棟本館 Liberal Arts and Sciences Main Building	F3 1 環境共用館 Common Building/Graduate School of Environmental Studies D2 6 理学部E館 School of Science / Graduate School of Science, Building E	D2 2 環境総合館 Environmental Studies Hall
創薬科学研究科 Graduate School of Pharmaceutical Sciences	F2 1 工学部6号館 School of Engineering / Graduate School of Engineering Building 6	F3 7 創薬科学研究館 Pharmaceutical Sciences Building	
教養教育院 Institute of Liberal Arts and Sciences	A4 1 全学教育棟A館 Liberal Arts and Sciences Building A	B4 1 全学教育棟本館 Liberal Arts and Sciences Main Building	
博士課程教育推進機構 Doctoral Education Consortium	D2 11 理学部C館 School of Science / Graduate School of Science, Building C		
附置研究所 共同利用・共同研究拠点 Research Institutes Inter-University Service Facilities	E3 2 環境医学研究所 Research Institute of Environmental Medicine F3 8 未来材料・システム研究所(研究所共同館 II) Institute of Materials and Systems for Sustainability (Research Institutes Building II) F3 6 未来材料・システム研究所(総合研究実験棟) Institute of Materials and Systems for Sustainability (Research Laboratory Building) F3 8 宇宙地球環境研究所(研究所共同館 II) Institute for Space-Earth Environmental Research (Research Institutes Building II) C2 1 機能生命コア研究所(E1創発工学館) Institute for Advanced Research (Emergent / Innovative Engineering Building)	F3 10 未来材料・システム研究所(エネルギー変換エレクトロニクス研究館 (C-TECs) (IMaS+Transformative Electronics Commons (C-TECs)) B2 1 未来材料・システム研究所(高効率エネルギー変換研究施設) Institute of Materials and Systems for Sustainability (Research Facility for Advanced Energy Conversion) D1 1 未来材料・システム研究所(超高圧電子顕微鏡施設) Institute of Materials and Systems for Sustainability (High Voltage Electron Microscope Laboratory) D4 1 宇宙地球環境研究所(古川記念館) Institute for Space-Earth Environmental Research (Furukawa Hall) C1 2 情報基盤センター Information Technology Center	F3 9 未来材料・システム研究所(エネルギー変換エレクトロニクス実験館室 (C-TEFs) (IMaS+Transformative Electronics Facilities (C-TEFs)) C1 1 未来材料・システム研究所(先端結晶共同研究施設) Institute of Materials and Systems for Sustainability (Advanced Crystal Research Building) F2 3 宇宙地球環境研究所(研究所共同館 I) Institute for Space-Earth Environmental Research (Research Institutes Building I) C2 6 低温プラズマ科学研究センター(NIC) Center for Low-temperature Plasma Sciences (NIC)
総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness and Sports	E5 1 総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness and Sports	C3 3 保健管理室 Health Administration Office	
国際高等研究機構 Nagoya University Institute for Advanced Study	F3 2 高等研究院(高等総合研究館) Institute for Advanced Research (Institute for Advanced Research Hall)	D2 1 トランスフォーマティブ生命分子研究所(ITbM) Institute of Transformative Bio-Molecules (ITbM)	C2 4 素粒子宇宙起源研究所 (ES 総合館) Heavy-Quark Origin Exploration Hall (Engineering and Science Building)
学際統合物質科学研究機構 Integrated Research Consorium on Chemical Sciences	D2 10 野依記念物質科学研究館 Noyori Materials Science Laboratory		
未来社会創造機構 Institute of Innovation for Future Society	F3 4 グリーンビークル材料研究施設 Materials Research Laboratory for Green Vehicle	C2 6 ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC) National Innovation Complex (NIC)	
グローバル・マルチキャンパス推進機構 Global Multi-Campus	C5 1 アジアサテライトキャンパス学院(国際棟) Asian Satellite Campuses Institute (International Building) D2 2 国際環境人材育成センター(環境総合館) Center for Global Environmental Leaders (Environmental Studies Hall)	C5 3 法政国際教育協力研究センター(アジア法交流館) Center for Asian Legal Exchange (Asian Legal Exchange Plaza) C5 3 日本教育研究センター(アジア法交流館) Research and Education Center for Japanese Law (Asian Legal Exchange Plaza)	
その他教育研究施設 (学内共同教育研究施設等) Other Facilities (Inter-Departmental Education and Research Centers)	E2 3 アイトート総合センター Radioisotope Research Center C2 5 減災連携研究センター(減災館) Disaster Mitigation Research Center (Disaster Mitigation Research Building) F2 1 機能生理学研究センター(工学部 6 号館) Organ and Neural Physiology Research Center (School of Engineering Building 6) E2 2 生物機能開発利用研究センター Bioscience and Biotechnology Center E1 1 農学国際教育研究センター(農学部 A 館) International Research and Education for Agriculture (Agricultural Science Building A)	D2 4 遺伝子実験施設(理学部 F 館) Center for Gene Research, School of Science (Building F) B4 4 高等教育研究センター(文系総合館) Center for Advanced Research on Higher Education (Humanities and Social Sciences) D1 2 ジェンダーダイバーシティセンター(本部別館) Center for Gender Diversity (Central Administration Building Annex) B2 4 ディープテック・ジョアイノベーションサーベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Deep Tech Joai Innovation Center Venture Business Laboratory D2 10 物質科学国際研究センター(野依記念物質科学研究館) Research Center for Materials Science (Noyori Materials Science Laboratory)	C5 1 言語教育センター(国際棟) Language Education Center (International Building) B4 5 心の発達支援研究実践センター(教育学部本館) Psychological Support Research Center in Nurse Development School (Education Bldg.) C1 4 シンクロトロン光研究センター(工学部 8 号館南棟) Synchrotron Radiation Research Center (School of Engineering Building 8 South) E3 4 ナショナルコンポジットセンター National Composites Center in Japan C5 3 法政国際教育協力研究センター(アジア法交流館) Center for Asian Legal Exchange (Asian Legal Exchange Plaza)
産学官連携関連施設 Industry-Academia-Government Cooperation Facilities	E2 6 Tokai Open Innovation Complex NAGOYA TOIC NAGOYA C2 6 ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC) National Innovation Complex (NIC)	B2 3 インキュベーション施設 Incubation Facility B2 4 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Venture Business Laboratory	F3 4 グリーンビークル材料研究施設 Materials Research Laboratory for Green Vehicle
学生支援組織等 Student Support Organizations	B4 1 アビリティ支援センター(全学教育棟本館) Ability Support Center (Liberal Arts and Sciences Main Building)	D3 6 学生相談センター・キャリアサポートセンター(学生支援棟) Student Counseling Center / Career Support Center (Student Support Building)	
スポーツ関連施設 Sports Facilities	E5 2 新体育館 New Gymnasium B5 1 体育館・屋内プール Gymnasium / Indoor Swimming Pool	F5 1 総合運動場複合棟 Student Activities Complex Administration Building	F4 1 体育合宿所 Training Camp Facility
その他 Other	E4 2 インターナショナルレジデンス東山 International Residence Higashiyama F2 2 リサーチャーズ・ビレッジ東山 Researchers Village Higashiyama	B1 1 学生会館 Student Hall	D1 4 グリーンサロン東山 Green Salon Higashiyama

図 4-5　インデックス

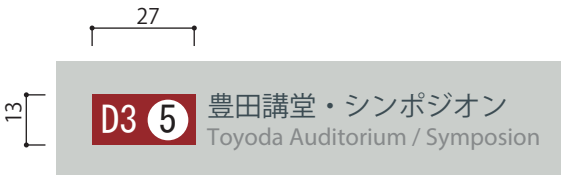


図 4-6　施設表記

4-3　エリア案内サイン

エリア案内サインは、図 4-1 のエリア分けに基づき、各エリア内の建物の位置情報を案内することを目的としている。全学案内サインで目標建物が位置するエリアを把握した来訪者が、エリア内でさらに詳細な建物位置情報を確認するためのものである。

（1）設置位置（図 4-1）

・各エリアへの公道からの入り口付近や交差点にキャンパス全体にバランスよく配置する。
・歩道の通行や見通しの障害とならない場所に設置する。

（2）構成内容（図 4-7）

・①エリア名称、②ロゴマーク、③エリア案内図、④インデックスで構成する。
・それぞれの文字規定を定める（表 4-2）。

①エリア名称

・「 ○○学部周辺案内 」と表記する。
・日本語は 50mm 程度、英語は 20mm 程度とする。
・文字の太さは日本語、英語共に R とする。
・中央配置とする。

②ロゴマーク

・東海国立大学機構・名古屋大学のロゴマークを右上に記載する。

③エリア案内図

ⅰ）エリア

・原則として現在地を中心に 400m 四方程度の範囲を記載するが、設置位置等の状況に応じて記載範囲を調整する。
・全学案内サインのグリッド分けに従う（図 4-4）。
・各エリア内に位置する施設には住所番号を記載する。

ⅱ）部局名称

・部局名称を**黒字**で記載する。
・エリア案内図内に他の部局に属する施設がある場合にはその部局名称も記載する。

ⅲ）施設名称

・施設名称を黒字で表記する。
・現在地を赤字（C0 M100 Y100 K0）で表記する。

ⅳ）ピクトグラム

・食堂、郵便局、信号機、地下鉄出入り口等には、3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。
・ピクトグラムの大きさは幅 20mm 程度、高さ 20mm 程度とする。
・案内図端部に方位を記載する。大きさは直径 85mm 程度とし、3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

ⅴ）QR コード

・エリア案内図の右下に、名古屋大学インタラクティブマップ を閲覧するための QR コードを掲載する。

④インデックス（図 4-7 下部、表 4-2）

・インデックス左側に学部等「組織名称」を、右側にその組織が入居する「施設名称」を記載する。

ⅰ）組織名称

・公開施設や食堂・売店等、多くの来訪者が予想される施設をインデックス上部に、学部等、主に学内の人が利用する施設をインデックス下部に記載する。

・大学院の研究科がある場合には学部名称の右横に併記する。

ⅱ）施設名称

・施設内に記念施設等がある場合には（　）内に記載する。　例：博物館（古川記念館）

ⅲ）住所番号（図 4-6）

・施設名称の左横に記載する。

・高さ 13mm 程度、幅 30mm 程度とする。

・色彩計画（3 章 5 節）において組織ごとに定められた色彩を用いる。

・D 3②は全学案内図において D 行 3 列の②番の建物を示す。

ⅳ）記念施設名称

・エリア内に存在する記念施設を案内図の右下に記載する。各記念施設には、北西から南東へ向かって順に①②…の番号を振り、案内図と対応させる。

・左寄せとする。

表 4-2　エリア案内図・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
エリア案内図	部局名称	黒字・30mm 程度・M	黒字・25mm 程度・R	
	施設名称	黒字・15mm 程度・M	黒字・13mm 程度・R	
	現在地	赤字・20mm 程度・B	赤字・33mm 程度・B	
インデックス	組織名称	黒字・18mm 程度・M	黒字・25mm 程度・M	左寄せとする。
	専攻・学科名称	黒字・10mm 程度・M	黒字・10mm 程度・M	左寄せとする。
	施設名称	黒字・10mm 程度・M	黒字・9mm 程度・M	左寄せとする。

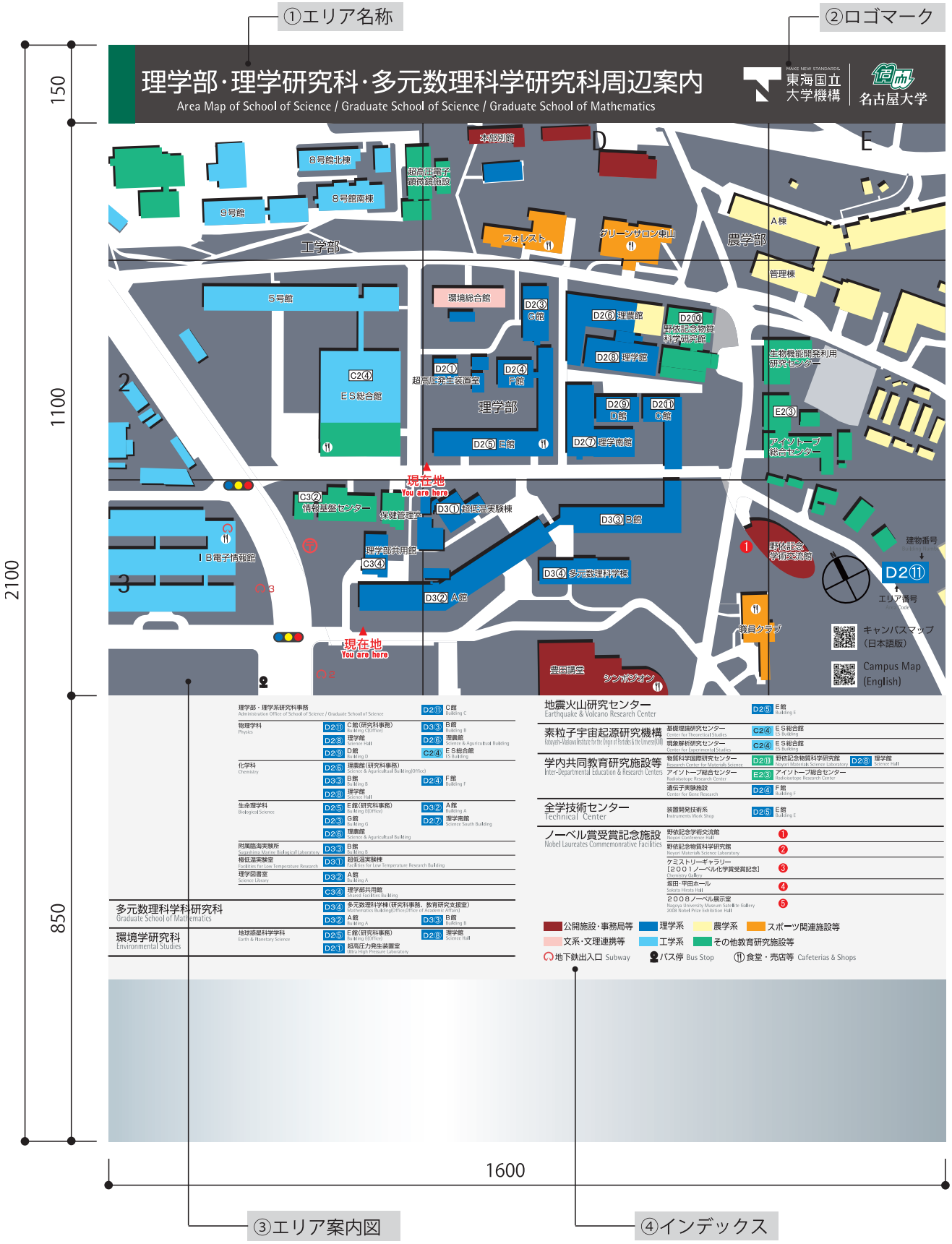


図 4-7　エリア案内サイン（例）

4-4　建物名サイン

建物名サインは、建物の名称を把握することを目的とする。建物名サインを付ける建物は、延床面積 1,000 ㎡以上の研究室等の居室がある建物とする。自立型サインの他、必要に応じて建物の外壁や玄関扉などにも建物名サインを設置できる。なお、外部から見やすい位置に壁面サインを設置できれば、自立型サインを省略しても良い。

自立型サイン

（1）設置位置

・建物の主要な出入り口に近く、かつ通りから見やすい位置に設置する。
・主要な出入り口が複数ある場合には必要に応じて設置する。

（2）構成内容（図 4-8）

・①建物名称、②ロゴマーク、③組織名称で構成する。
・それぞれの文字規定を定める（表 4-3）。

①建物名称

・住所番号は幅 120 ㎜程度、高さ 50 ㎜程度とし、サイン右上に記載する。
・住所番号の下地は色彩計画（3 章 5 節）において組織ごとに定められた色彩を用いる。

②ロゴマーク

・東海国立大学機構・名古屋大学のロゴマークを右上に記載する。

③組織名称

・下地は色彩計画（3 章 5 節）において組織ごとに定められた色彩を用いる。又、原則として全学案内図で使用している色と整合させ、分かりやすくする。

④周辺案内図（任意設置）

周辺案内図の設置は原則なしとするが、物理的に上記（1）の設置位置に設置することが困難であり、自立型サインの設置位置から建物を認識しにくい場合は、必要に応じて建物サインの下部に周辺案内図を設置する。

・原則、設置建物を中心に **300m 四方程度の範囲**を記載する。
・縮尺は 1/1000 ～ 1/600 程度として周辺状況に合わせて調整する。
・記載内容はエリア案内図に準ずる。
・総合案内所、食堂、信号機、郵便局、地下鉄出入り口等には 3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。
・ピクトグラムの大きさは幅 12mm 程度、高さ 12mm 程度とする。

表 4-3　建物名サイン・周辺案内図 文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
建物名	建物名称	白字・50mm 程度・M	白字・23mm 程度・M	中央配置とする。
	組織名称	白字・30・19mm 程度・M	白字・19・11mm 程度・M	左寄せとする。

図 4-8　建物名サイン

壁面サイン

・文字サイズは、原則、一辺の長さを 30 ㎝以下とし、設置建物の規模やデザイン、周辺建物等のバランスを考慮した大きさとする。
・色彩は原則、無彩色系とし、外装のデザインや色彩、材質等と調和した色とする。ただし、社名ロゴ等において一部のみ有彩色を用いる場合は別途協議を行うものとする。
・設置箇所は、主要な玄関周辺の外壁、扉等に設置するものとする。
・上記基準に適合するか判断が困難な場合、または、特別な理由により上記基準とは異なるサインを設置する場合は、キャンパスマネジメント推進本部会議にて審議を行うものとする。

図 4-9　ステンレス切文字タイプ（壁面設置）

図 4-10　カッティングシート貼りタイプ（玄関扉ガラス設置）

図 4-11　その他

建物内サイン

Interior Sign

5．1｜総合案内板
5．2｜各階案内板
5．3｜組織・室名サイン
5．4｜共用設備サイン

4章では、外構サインについてより詳細な基準を定めた。本章では、「建物内サイン（総合案内板・各階案内板・室名サイン・共用設備サイン）」について、設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

5-1　総合案内板

総合案内板は建物内に入っている組織及び入居者の所在地の確認と、共用室の所在地や各階の構成の確認を目的としている。

（1）設置位置

・建物のエントランスホールに設置する。
・エントランスホールが複数ある場合には必要に応じて適宜設置する。

（2）構成内容 (図 5-1)

・建物名称、組織名称、入居者名、室名、室番号案内、フロア案内図で構成する。
・一体的に利用する施設が周辺にある場合は、必要に応じて周辺案内図を記載する。
・それぞれの文字規定を定める（表 5-1）。

①建物名称

・建物の正式名称（付属名称がある場合には付属名称も）を記載する。

②組織名称、入居者名、室名、室番号案内

・記載内容

［A］学部、研究科、研究所、センター等の部局名称：黒色プレート
［B］専攻、学科、分野等の名称：部局色プレート
［C］講座、研究室等の名称（必要に応じて記載）：部局色プレート
［D］入居者氏名（役職名は記載しない）：白色プレート
［E］組織内の事務室、会議室、講義室、研究室、実験室等の室名称：白色プレート
［F］［D］、［E］の室番号：部局色プレート
※組織区分ごとに階構成がなされていることが多いため、概ね左から右へ低層から高層となるよう配列する。
※プレート数は入居者数によるものとする。

5

表 5-1　総合案内板・文字規定

文字規定		日本語	英語	備考
総合案内板	正式名称	黒字・125mm 程度・M	黒字・46mm 程度・M	
	付属名称	黒字・50mm 程度・R	黒字・46mm 程度・R	
フロア案内図	室番号	黒字・13mm 程度・M		
	室名称	黒字・8mm 程度・R	黒字・5mm 程度・R	
	現在地	赤字・10mm 程度・B	赤字・9mm 程度・B	

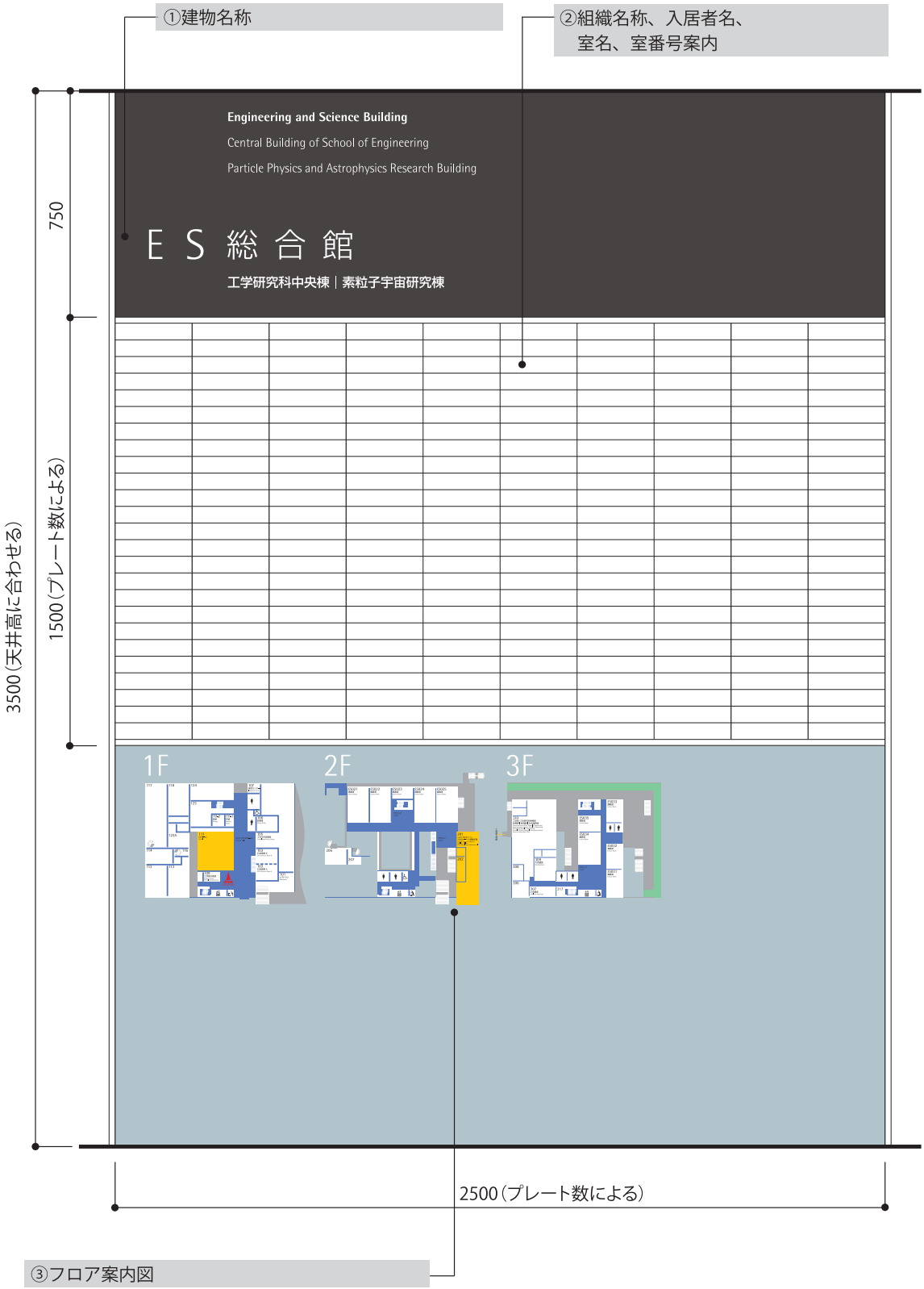


図 5-1　総合案内板　記載情報

③フロア案内図（図 5-2）

ⅰ）下地色

・下地の色はグレー（C0 M0Y0 K40）とする。

ⅱ）エリア

・各階の平面図を記載する（階数が多く記載しきれない場合は、共用室を含む主要階のみを記載する）。

・縮尺は 1/200 程度とする。

・現在地に正対する向きを上にして表記する。

ⅲ）室名称

・全ての室の室名および室番号を記載する。

・講義室、展示室等、公開性が高い共用の諸室名を黒字で表記する。

・現在地を赤字（C0 M100 Y100 K0）で表記し、矢印を記入する。

・廊下は青色（C70 M50 Y0 K0）で表記し、展示室等、多くの来訪者の利用が主に想定されている諸室は黄色（C0 M83 Y100 K0）で表記する。

ⅳ）ピクトグラム

・EV、トイレ、AED 等には 3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

・ピクトグラムは幅 15mm 程度、高さ 15mm 程度とする。

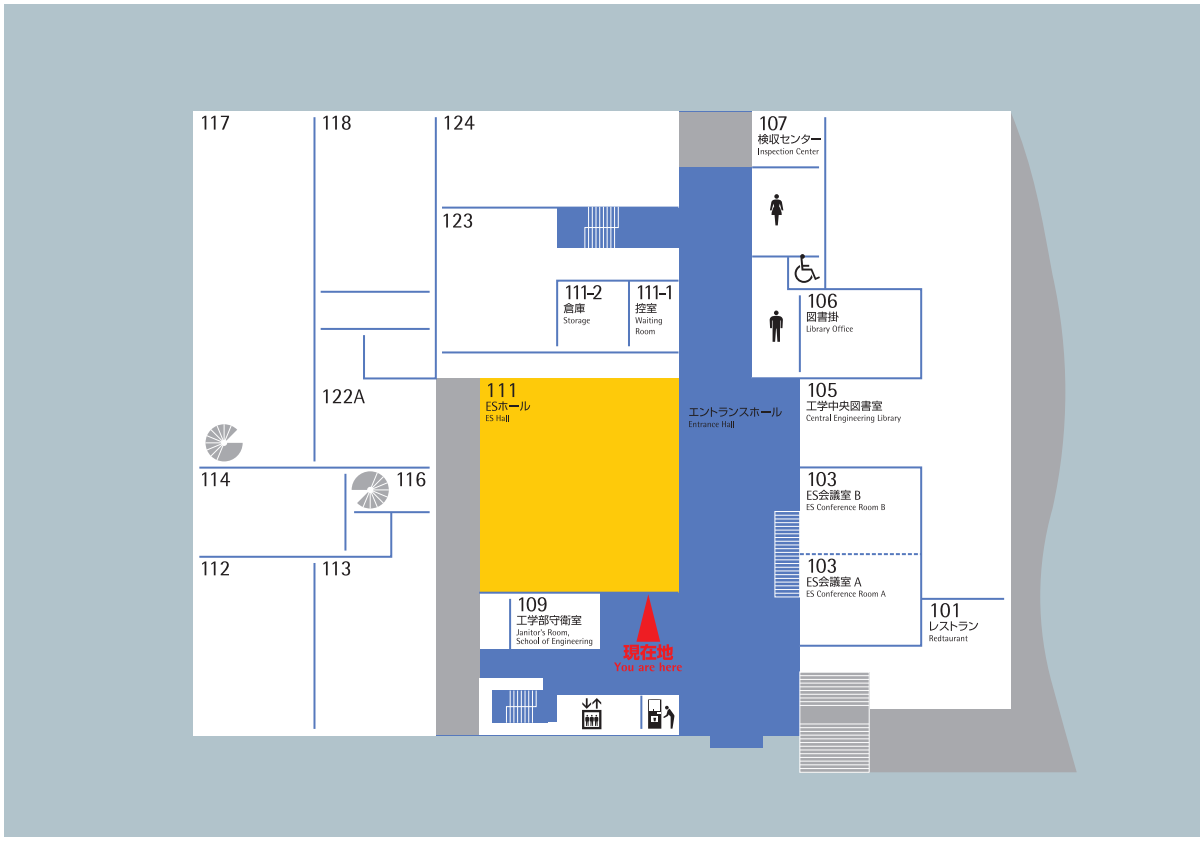


図 5-2　フロア案内図拡大図

5-2　各階案内板

当該フロアに入居する組織、入居者、共用室の所在地の確認を目的としている。

（1）設置位置
- 各階のエレベーターホールに設置する。
- エレベーターホールが複数ある場合には必要に応じて適宜設置する。

（2）構成内容（図 5-3）
- 階数、建物名称、組織名称・入居者名・室名・室番号案内、フロア案内図で構成する。
- 原則として、AED、消火栓の位置を記入する。また、講義室の室内側には、避難ルートを示す案内図を設置することを検討する。
- それぞれの文字規定を定める（表 5-2）。

①階数、建物名称

ｉ）階数
- 上部に階数を記載する。

ii）建物名称
- 建物の正式名称を（付属名称がある場合には付属名称も）記載する。

②組織名称、入居者名、室名、室番号案内
- 組織区分ごとに組織名称、入居者名、室名を黒字で表記する。
- 総合案内板（5 章 1 節）に準ずる。

③フロア案内図
- 総合案内板フロア案内図（5 章 1 節）に準ずる。

表 5-2　各階案内板・文字規定

	日本語	英語	備考
階数	黒字・190mm 程度・R		左寄せとする。
建物正式名称	黒字・40mm 程度・B	黒字・40mm 程度・M	左寄せとする。
建物付属名称	黒字・40mm 程度・R	黒字・40mm 程度・R	左寄せとする。

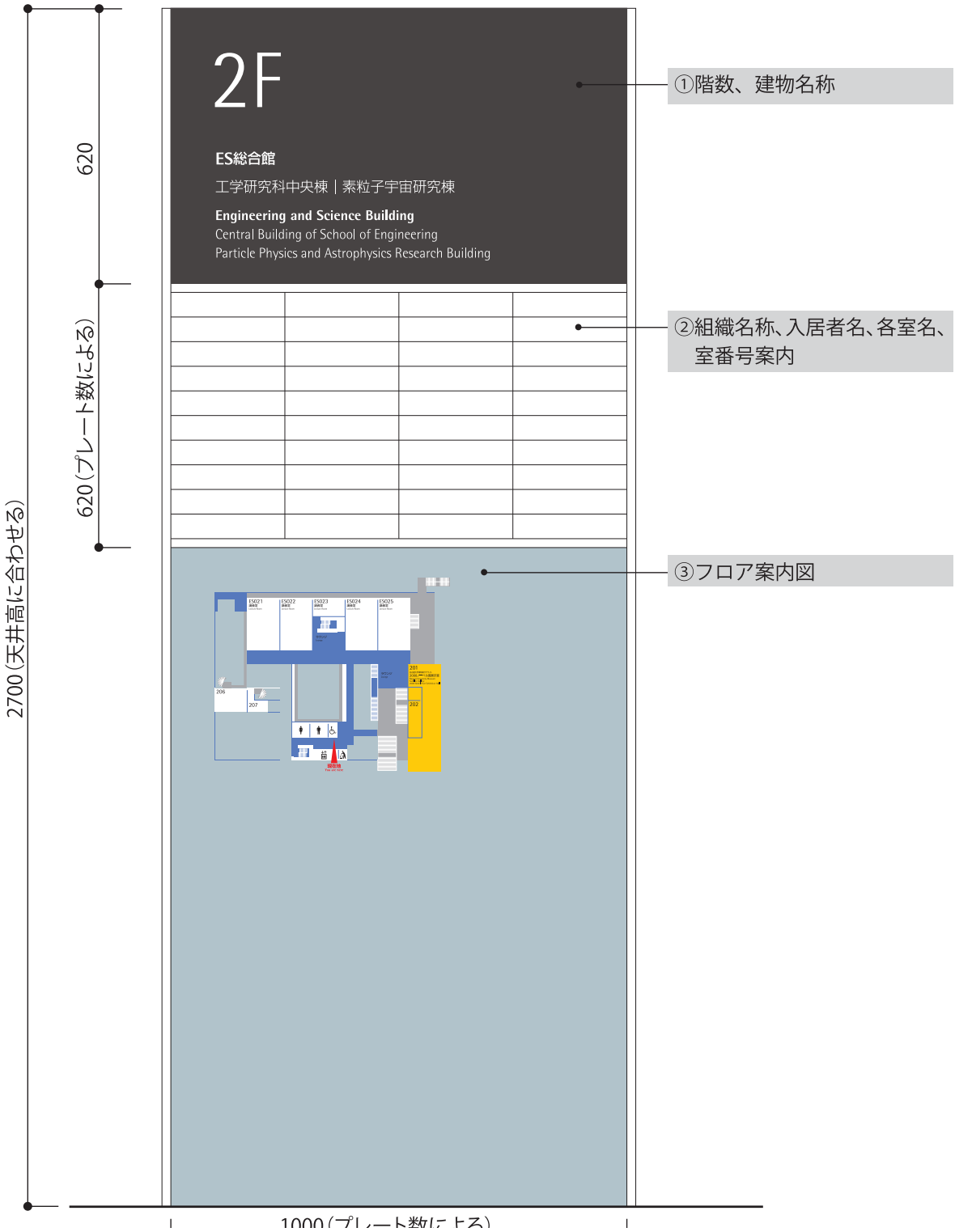


図 5-3　各階案内板　記載情報

5-3　組織・室名サイン

室名または入居者、及び室番号の確認を目的としている。原則として着脱式プレートサインを使用し、室名変更の可能性の低い室についてはカッティングシートサインを使用する。

着脱式プレートサイン

（1）設置する室

・教職員の居室、実験室、研究室等の各室の各室及び組織名称については、変更の可能性があるため、着脱可能なマグネットを用いた着脱式プレートサインを用いる。

（2）設置位置（図 5-6）

・床面から**高さ 1650mm 程度**の位置に設置する。

（3）構成内容（図 5-4）

・組織名称または室名・室番号、教職員名・室番号で構成する。
・それぞれの文字規定を定める（表 5-3）。

①室名等

・日本語・英語の割り付けについては下表に規定する。
・本部事務局の組織名称には、名大マークまたは東海国立大学機構のロゴマークを併記する。

②室番号

・下地は色彩計画（3 章 5 節）において組織ごとに割り当てられた色彩を用いる。

表 5-3

	日本語	英語	備考
組織名称・室名等	黒字・23mm 程度・M	黒字・14mm 程度・R・半角	日本語は均等割り付け、英語は左寄せとする。
室番号	黒字・23mm 程度・R・半角		中央配置とする。

カッティングシートサイン

（1）設置する室

・講義室、会議室等、室名変更の可能性が低い室については、建物全体のデザインを考慮して、必要な場合はカッティングシートサインを用いる。

（2）設置位置（図 5-6）

・床面から**高さ 1320mm 程度（下端）**の位置に設置する。

（3）構成内容（図 5-5）

・室名、室番号で構成する。
・それぞれの文字規定を定める（表 5-4）。

表 5-4　カッティングシートサイン・文字規定

	日本語	英語	備考
室名	黒字・27mm 程度・R	黒字・18mm 程度・R・半角	左寄せとする。
室番号	黒字・56mm 程度・R・半角		左寄せとする。

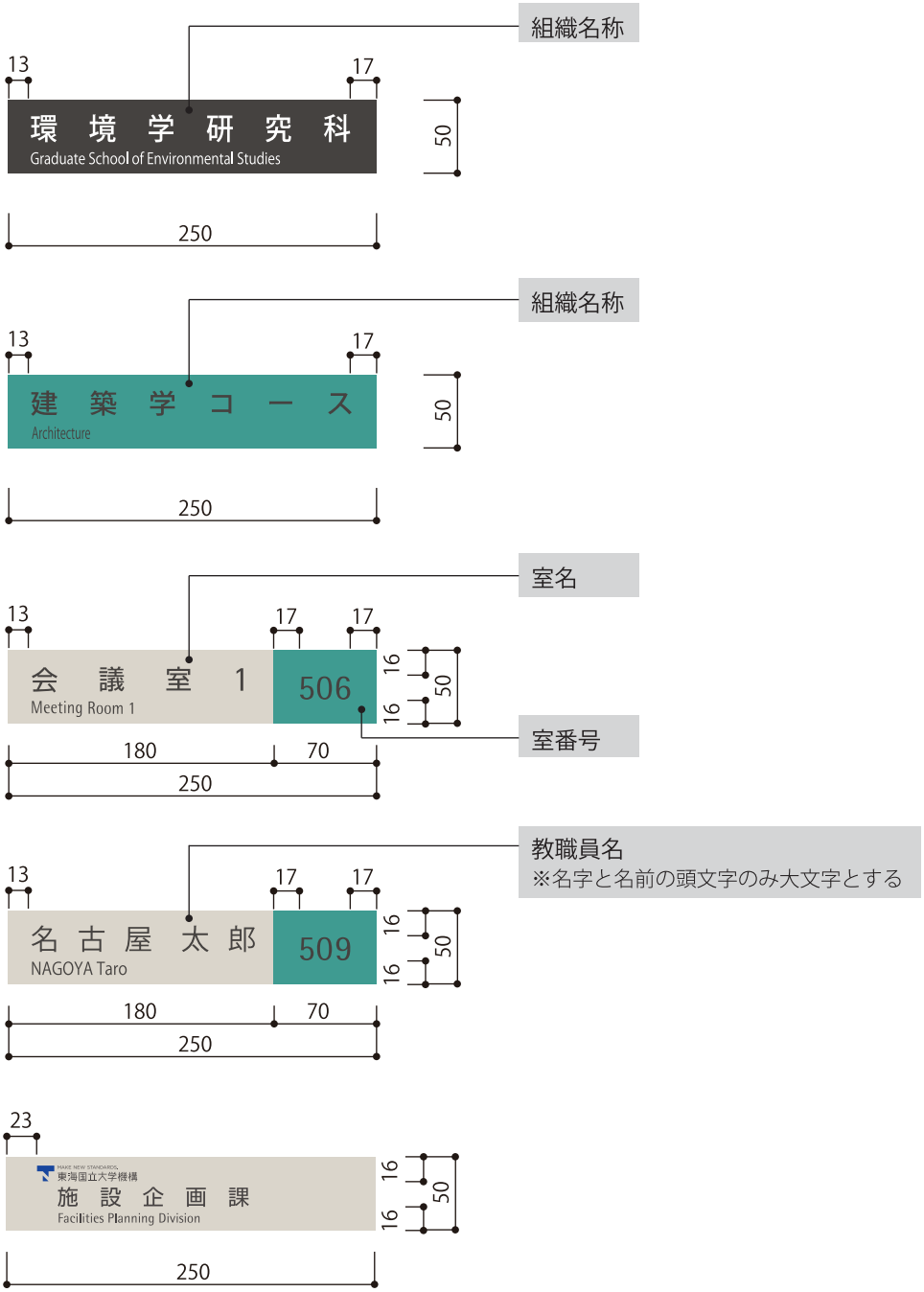


図 5-4　着脱式プレートサイン

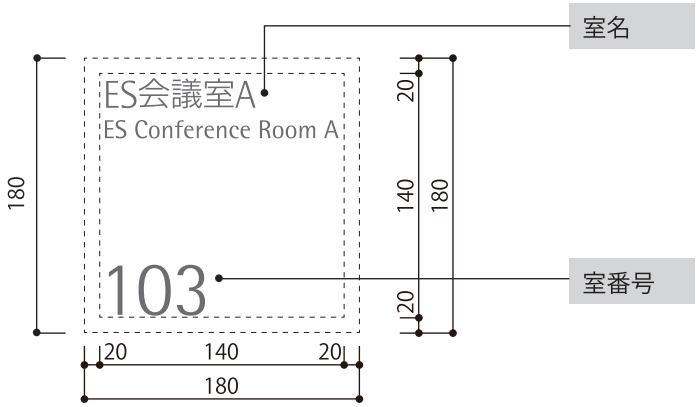


図 5-5　カッティングシートサイン

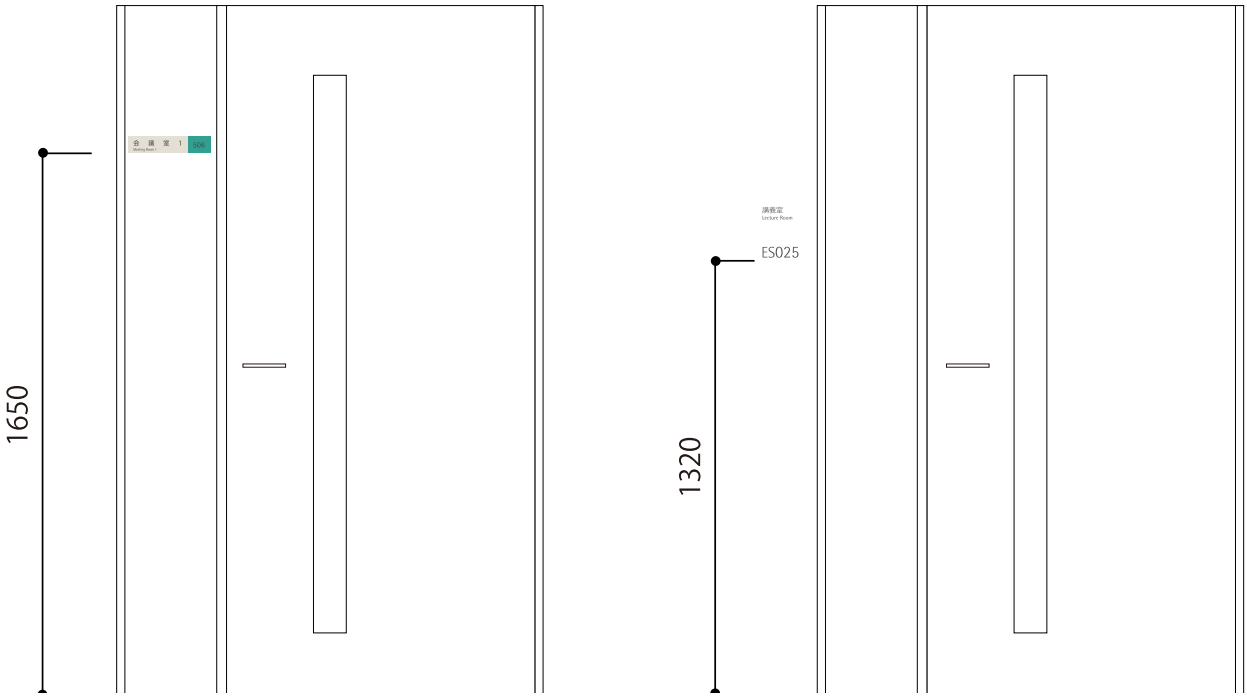


図 5-6　室名サイン　設置位置

5-4　共用設備サイン

ピクトサイン
　トイレ、ゴミ箱などの場所の確認を目的としている。

（1）設置する壁面
- 塗装されている壁面についてはカッティングシートサインを用いる。
- コンクリート打ち放し等の塗装されていない壁面に関しては、ステンレスヘアライン仕上げのプレートによるステンレスサインを使用する。
- 視認性が低い場合には壁面からの突き出し形式を使用する。

（2）設置位置（図 5-7）
- 床面から高さ 1650mm 程度（上端）の位置に設置する。

（3）構成内容（図 5-8）
- ピクトグラムのみで構成する。
- 3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

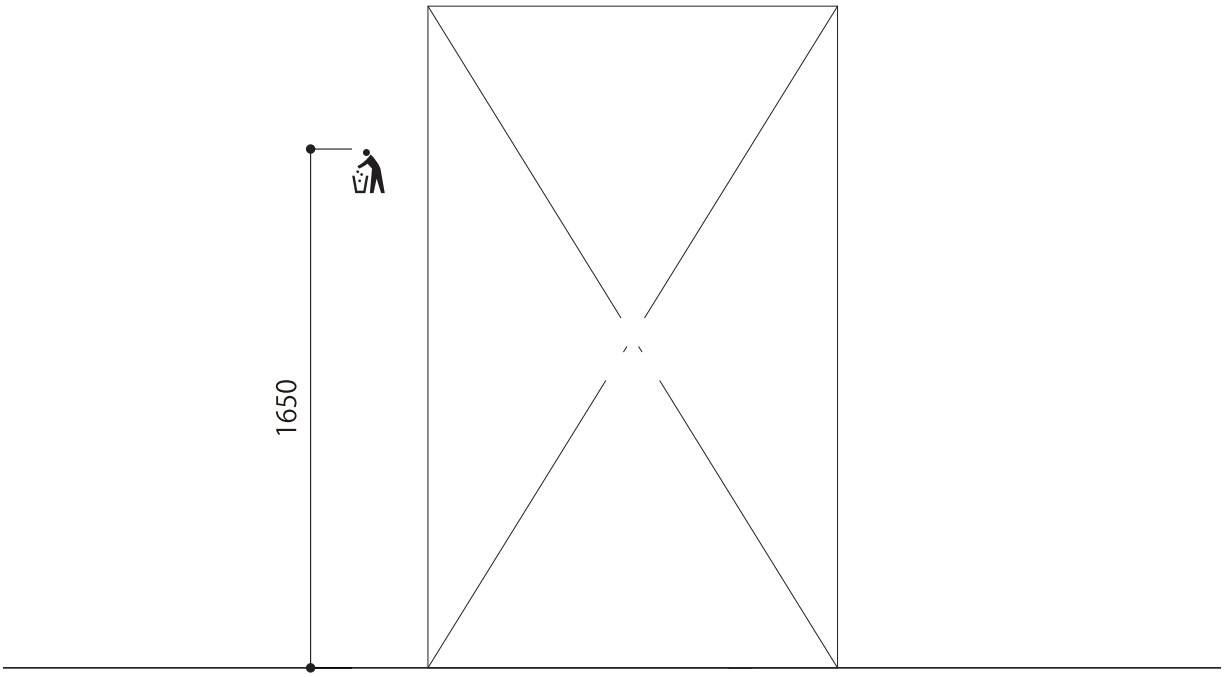


図 5-7　ピクトサイン設置位置

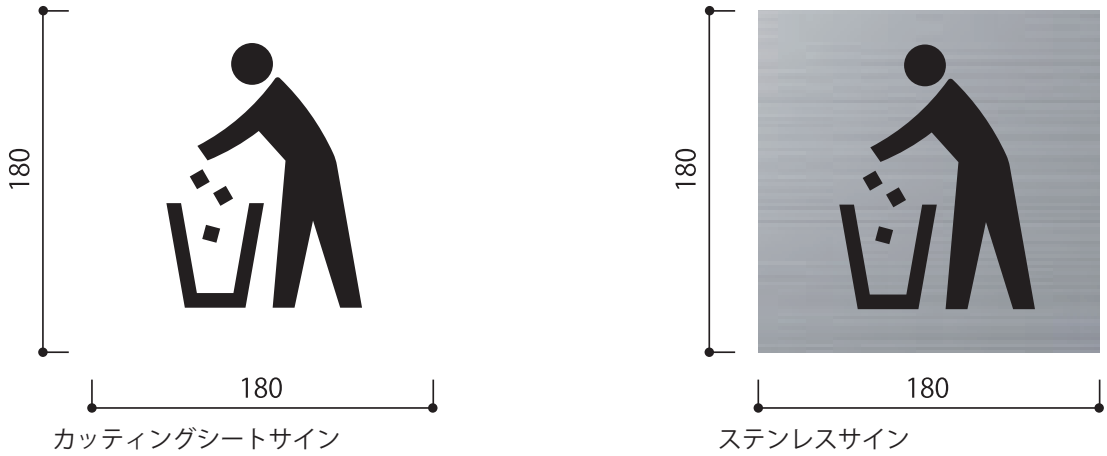


図 5-8　ピクトサイン　寸法

だれでもトイレサイン

（1）設置位置（図 5-9）

- トイレの扉に設置する。
- 廊下・ホールにトイレの扉が接していない場合は、廊下・ホールの壁面（トイレ用通路の入口横）にも設置する。
- 視認性が低い場合には壁面からの突き出し形式を使用する。

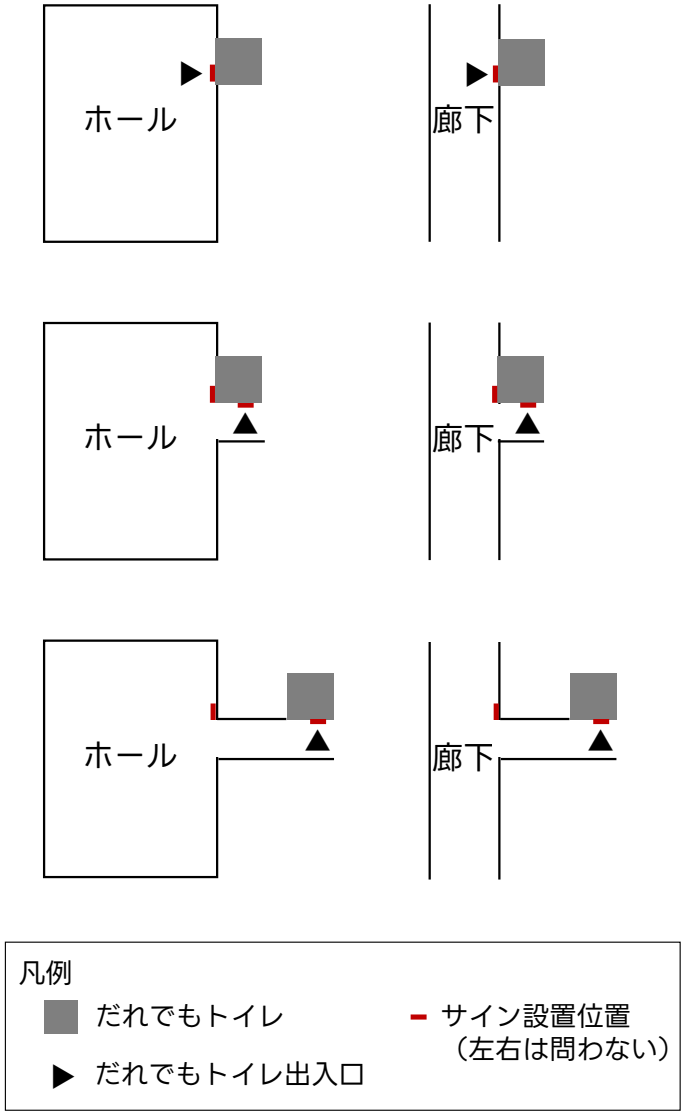


図 5-9　だれでもトイレサイン設置位置

（2）構成内容（図 5-10）

- 「だれでもトイレ」の表記、ピクトグラム、キャンパス内のだれでもトイレの情報を案内する QR コードで構成する。
- ピクトグラムは 3 章 7 節による。手すりは図 5-10 に示すピクトグラムを用いる。

180×230（単位：mm）

図 5-10　だれでもトイレサイン構成内容

その他案内サイン

Regulation and Advertisement Sign

6．1｜規制サイン等
6．2｜交通標識
6．3｜イベント情報掲示板
6．4｜広告サイン・サークル看板等
6．5｜モニュメント
6．6｜危険物表示サイン
6．7｜省エネ啓発サイン

本章では、規制サイン・交通標識・イベント情報掲示板・広告サイン・モニュメント等について、それぞれのサインの設置位置と構成内容（色彩や寸法等）のデザイン基準を定める。

6-1　規制サイン等

規制サイン等は名古屋大学東山キャンパス全域における通行者向けの規制表示を目的としている。整備・維持・更新は原則として本部で行う。

（1）設置位置
・キャンパス内の美観に十分配慮して、規制が必要な位置に適宜設置する。

（2）構成内容（図 6-1、図 6-2）
・禁煙、駐輪禁止等は各規制に対応するピクトグラム、規制名称で構成する。
・下地は、ダークグレー（DIC516: C86 M83 Y82 K10）で表記する。
・原則的にはポールに取り付け、独立設置とする。
・コンポジットロゴを記載する。

①ピクトグラム
・3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。

②規制名称
・文字の大きさは日本語で 55mm 程度、英語で 25mm 程度とする。
・文字の太さは日本語で B、英語で R とする。
・中央配置とする。
・文字記載量に応じて適宜サイズの調整を行う。

6-2　交通標識

交通標識は名古屋大学東山キャンパス全域における自動車向けの規制表示を目的としている。整備・維持・更新は原則として本部で行う。また、学内交通ルールの変更などに合わせて適宜、現状を調査し、修正および撤去を行う。

（1）設置位置
・キャンパス内の美観に十分配慮して、規制が必要な位置に適宜設置する。

（2）構成内容（図 6-3）
・ピクトグラムのみの表示とする。
・基本的にはポールに取り付け、独立設置とする。
・3 章 7 節で定めたピクトグラムを用いる。
・ポールには他の交通系サインを取り付けることも可能とする。

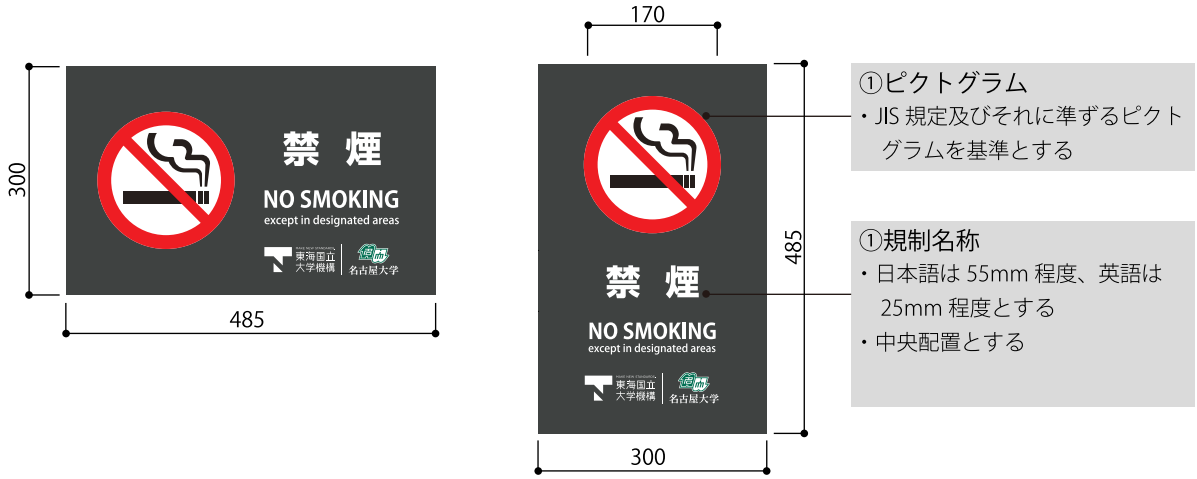


図 6-1　規制サイン　寸法

図 6-2　禁止マーク以外　イメージ図

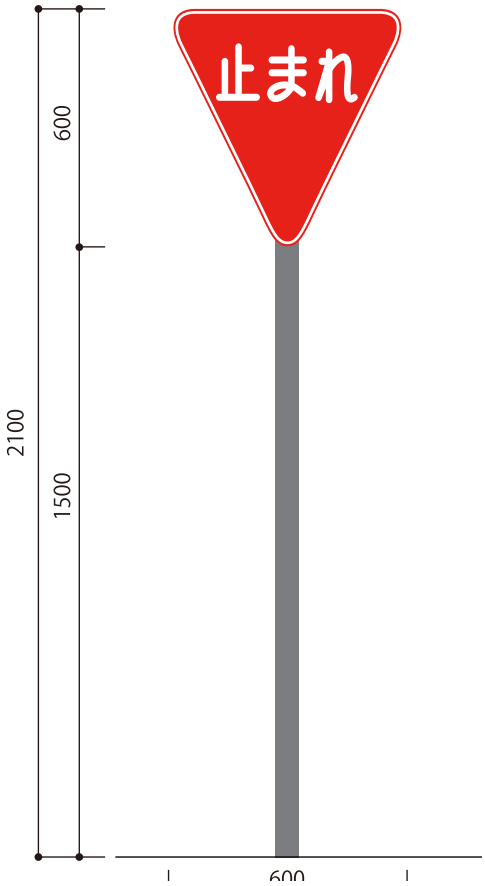


図 6-3　交通標識　寸法

6-3　イベント情報掲示板

大学内における講演情報・講義情報等の告知を目的とする。

屋内イベント掲示板

（1）設置位置

・キャンパス内の公開施設等、主要な建物のエントランスホールに設置する。

（2）構成内容（図 6-4）

・原則として電子掲示板（屋内液晶画面）とする。
・寸法は、適宜調整するものとするが、幅 2000mm、高さ 1000mm を目安とする。
・コンポジットロゴを記載する。

（3）運用方針

・現在、地下鉄名古屋大学駅に設置・標示されているような本部広報室で作成した全学的イベント情報のデータを活用し、その他に部局等で必要な情報を掲載する場合は、各部局等で作成・更新する。なお、メンテナンスについては協議していくこととする。

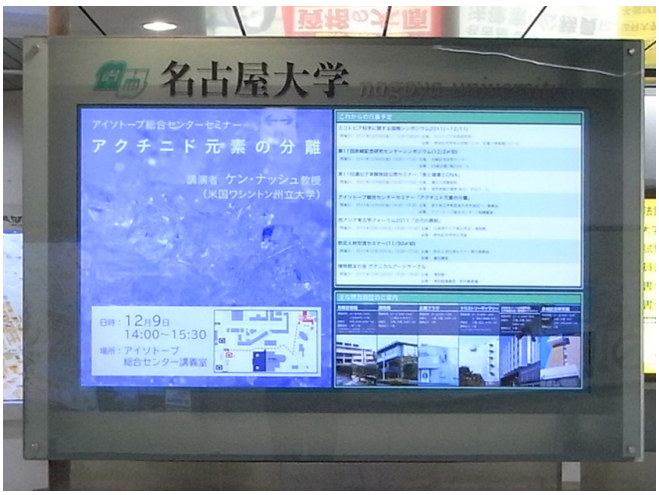


図 6-4　屋内イベント掲示板　参考写真（名古屋大学・地下鉄構内）

屋外イベント掲示板

学会や講演会等の案内が地下鉄入口付近に掲示されていないことが多く、掲示がある場合であっても仮設看板となっているのが現状（図 6-6）であるため、キャンパス入口付近および地下鉄出入口付近に学会や学内イベント用の掲示板を設置する。

自立型屋外イベント掲示板

（1）設置想定位置（図 6-5）

・地下鉄出入口に近接し来訪者の目に触れやすい位置とする。施設統括部と協議の上、そのほかの場所に設置することも可能とする。

（2）構成内容（図 6-7、図 6-8）

・原則として A0 ポスターが掲示できる寸法の強化ガラスによるものとする。

（3）運用方針

・運用については掲示板を設置する各部局等で検討する。

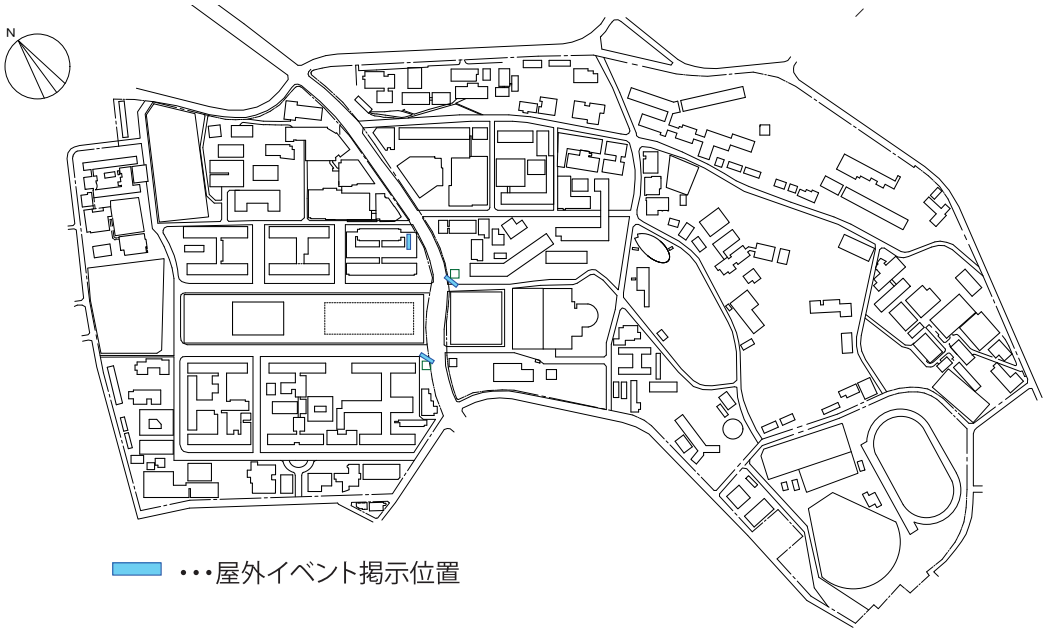


図 6-5　屋外イベント掲示板設置想定位置（案）

図 6-6　屋外サイン現状

図 6-7　屋外イベント掲示板　イメージ

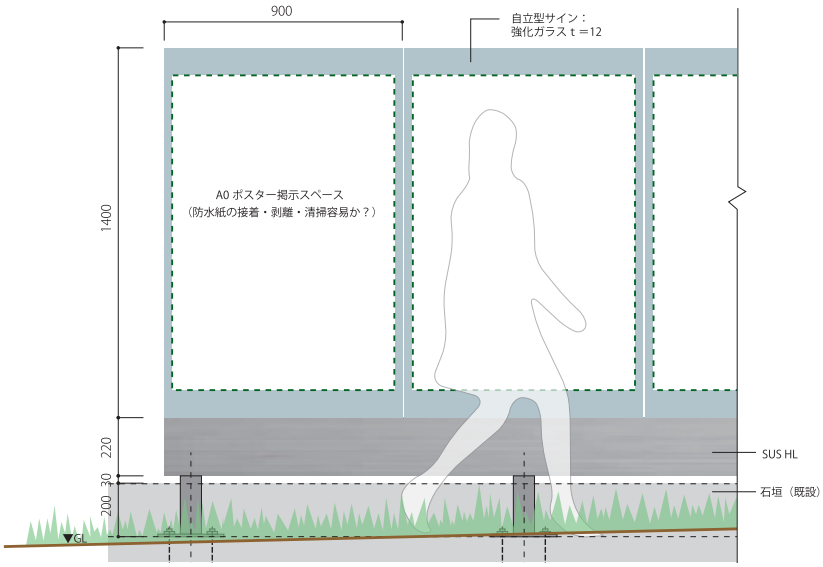


図 6-8　屋外イベント掲示板　寸法

壁持出型屋外イベント掲示板

（1）設置位置（図 6-9）

・主な交通手段として利用される地下鉄から、所属者の多い理系地区への出入口となるＩＢ電子情報館側の地下鉄出入口付近に設置する。

（2）構成内容（図 6-10）

・原則として A1 ポスター 2 枚および全学案内サインを掲示できる寸法のステンレス板による。
・仕様：壁面持出設置、ベース：ステンレス板、掲示貼付方式：上下マグネットバー
・全学案内図：カッティングシート貼

（3）設置期間等

・自立型屋外広告イベント掲示板に倣う。

図 6-9　ＩＢ館側地下鉄出入口付近

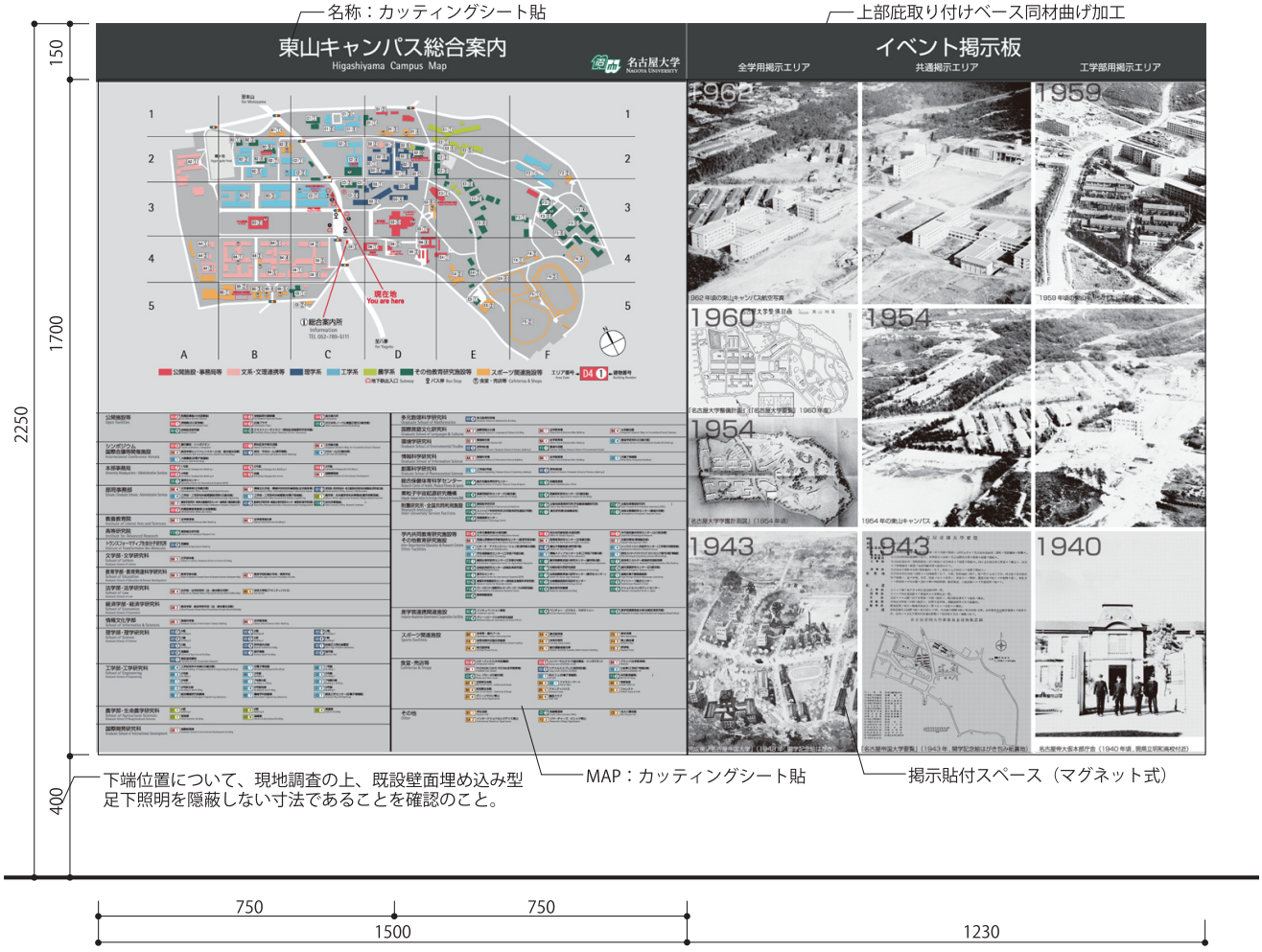


図 6-10　屋外イベント掲示板　イメージ図

6-4　広告サイン・サークル看板等

展示室等屋外サイン

（1）設置位置

・建物内に展示室が設置される場合、多くの来訪者への誘導・利便を図るため、建物名サインとは別に展示室等屋外サインを設置する。この際、サインの氾濫を防ぐため、サインの設置は最低限の数となるようにする。

（2）構成内容 (図 6-11)

・デザインは本マニュアルの規定を踏襲する。
・脚部はステンレスヘアライン仕上げを基本とする。
・着色部は焼き付け塗装を基本とする。

サークル看板

・学生の設置するサークル看板や大学祭等の看板（図 6-12）は、特に規制の対象としない。

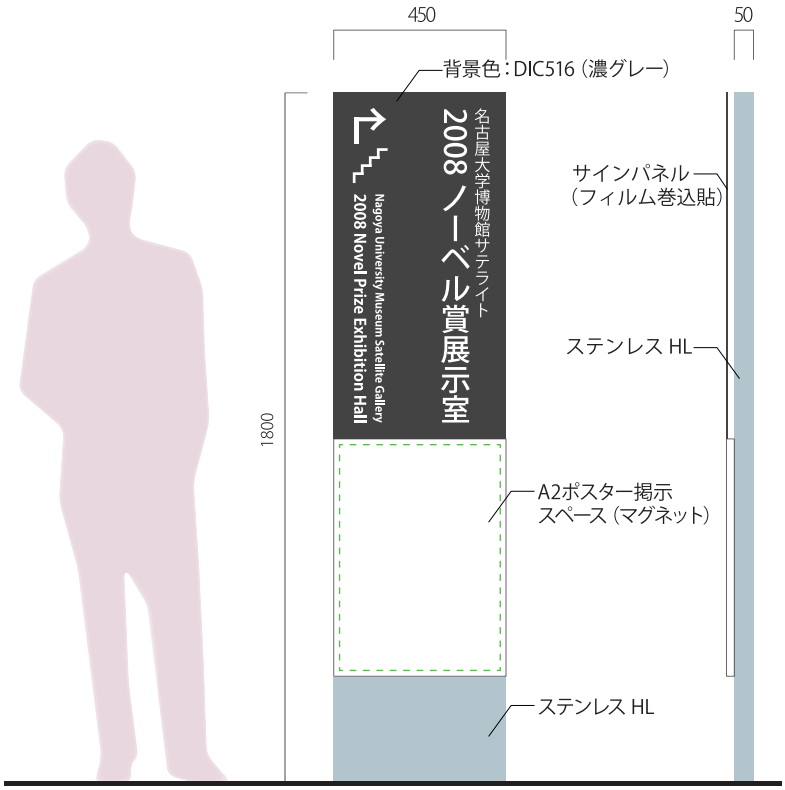


図 6-11　展示室等屋外サイン

図 6-12　サークル看板現況

店舗等屋外サイン

・地下鉄出入口付近などの多くの人の目に触れる全学案内サインに併設する形で食堂・　レストラン、売店等の店舗情報を掲載する。デザインやサイズ等は全学案内サイン（4 章 2 節）による。
・各店舗前に設置する店舗等屋外サインは、各店舗によりロゴやコンセプト等が異なるため、　デザインに明確な基準は設けないが、名古屋市屋外広告物条例等の関係法令を遵守し、形状、規模、色彩等を設置建物の外観やキャンパスの景観に配慮したものとする。なお、法令や配慮事項の確認のため施設統括部と事前協議の場を持つこととする。

ネーミングライツの愛称サイン等

・デザインについては、施設統括部と事前協議の場を持つこととする。
・サイズや色彩、素材等は、設置する建物の外観や内装デザインとの調和に配慮する。設置する建物の既存サインや看板と干渉せず、視認性を妨げないデザイン・位置とする。
・屋外に愛称サインを設ける場合は、名古屋市屋外広告物条例等の関係法令を遵守し、形状、規模、色彩等をキャンパスの景観に配慮したものとする。

6-5　モニュメント等

・設置位置：設置にあたっては設置者が施設統括部と事前協議の場を持つこととする。
・構成内容：デザイン、素材については原則として設置者に委ねるが、行政の定める景観計画を参照することが望ましい。

6-6　危険物表示サイン

危険物表示サインは、防災対策を念頭に以下の目的で設置する。

1）実験室使用者に対して：常時存在する危険を知らせ、必要な安全・防災対策を求め、初期消火・被害者救助に必要な装備を示す。

2）外来者に対して：実験室内に存在する危険を知らせ、不必要な入室を断り、入室に必要な装備を知らせる。

3）施設管理者（部局・本部）に対して：研究室・建物の防災・安全対策の策定基準に用い、災害時の避難誘導・被害判定・二次災害の防止対策の策定資料として用い、法令に基づく届け出・点検棟の基礎資料として用いる。

4）消防隊・レスキューに対して：活動方法の参考情報として示し、二次災害防止を図る。

整備・維持・更新は原則として各部局で行う。また、室の更新があった場合、「実験室危険物表示ＷＧ」の定める規定に合わせて、危険物を有する実験室の扉に適宜、設置または撤去を行う。

図 6-13　危険物表示サイン

名古屋大学キャンパス・サインマニュアル 2024

発行 | 国立大学法人東海国立大学機構　名古屋大学

企画・編集 | 施設・環境計画推進室、工学部施設整備推進室
施設統括部

発行日 | 2025 年 3 月　初版第 1 冊

1｜基本理念
2｜サインの現状把握と課題
3｜共通デザインガイドライン
4｜外構サイン
5｜建物内サイン
6｜その他案内サイン

名古屋大学 施設計画推進室・工学部施設整備推進室・施設統括部
design|Campus Plannning and Management Office, Nagoya University